

# 四国社会資本アーカイブスの石碑等リスト

令和4年4月

一般社団法人 四国クリエイト協会

## はしがき

この石碑等リストは、四国社会資本アーカイブスに掲載されている石碑等の情報をとりまとめたものです。石碑等には、四国の社会資本整備に関連した石碑のほか、標識、プレート等を含めています。

四国社会資本アーカイブスに石碑等が掲載されているデータ件数は徳島県 42 件、香川県 60 件、愛媛県 70 件、高知県 57 件の合計 229 件ですが、同じ石碑等が複数のデータに掲載されている場合がありますので、重複したものを除いて、徳島県 23 件、香川県 34 件、愛媛県 39 件、高知県 28 件の合計 124 件の石碑等リストを作成しました。

石碑等についてもっと知りたい時には、石碑等リストにある「四国社会資本アーカイブスで調べる」の番号をクリックしてください。四国社会資本アーカイブスで、関連する情報や写真、位置情報等を知ることができます。

四国各地では河川、道路、鉄道、港湾、電力などさまざまな分野で社会資本整備が行われてきました。私たちの生活は、先人が長年にわたって築いてきてくれた土台の上に成り立っています。社会資本整備に関連した石碑等は、先人が後世の人々のために、社会資本整備のきっかけ、経緯、社会資本ができあがるまでの苦労、地域の人々の働きや協力などを伝えるために設置してきたものです。この石碑等リストが多くの人に活用されて、四国の社会資本整備に対する理解と共感が高まることを願っています。

令和 4 年 4 月

一般社団法人 四国クリエイト協会  
理事長 木村 昌司

## 凡 例

徳島県の石碑等……………徳島 1～11 頁  
香川県の石碑等……………香川 1～16 頁  
愛媛県の石碑等……………愛媛 1～17 頁  
高知県の石碑等……………高知 1～14 頁

石碑等リストの件数は以下のとおりです。

	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	合計
河川	10	1	9	13	33
道路	6	8	10	4	28
鉄道	3	2	3	7	15
港湾・空港	1	2	2	1	6
電力				1	1
市街地開発		2	6		8
ため池		12	9		21
用水	3	7			10
公園					0
治山施設				2	2
流域下水道					0
合計	23	34	39	28	124

※同じ石碑等が異なる複数の社会資本種類のデータベースに掲載されている場合がありますが、この表では石碑等の社会資本種類はそれぞれ1つに限定して表示しています。

目 次	
<徳島県>	(頁)
1. 吉野川改修記念碑 (吉野川市)	徳島 1
2. 移転の碑 (吉野川市)	徳島 1
3. 川島排水機場の治水拓運碑 (吉野川市)	徳島 2
4. 旧吉野川河口堰の慰霊碑 (徳島市)	徳島 2
5. 北麓疎水碑 (三好市)	徳島 3
6. 善徳不動之碑 (三好市)	徳島 3
7. やすらぎの大地碑 (三好市)	徳島 4
8. 一の堰記念碑 (阿南市)	徳島 4
9. ガマン堰跡の標識 (阿南市)	徳島 4
10. 林村築堤記念碑 (阿波市)	徳島 5
11. 舞中島治水の歴史の標識 (美馬市)	徳島 5
12. 四国は一つ碑 (三好市)	徳島 6
13. 日本の道 100 選顕彰碑 (徳島市)	徳島 6
14. 豊川翁之碑 (徳島市)	徳島 7
15. 民益碑 (三好市)	徳島 7
16. 武田覚三の顕彰碑 (美馬市)	徳島 8
17. 名田橋の記念碑 (徳島市)	徳島 8
18. 松尾神社の「世紀の石文」碑 (つるぎ町)	徳島 8
19. 平和之碑 (阿南市)	徳島 9
20. 阿佐海岸鉄道開通記念之碑 (海陽町)	徳島 9
21. 山田隆二翁碑 (阿南市)	徳島 9
22. 国営北岸用水碑 (阿南市)	徳島 10
23. 徳島における近代港発祥の地碑 (小松島市)	徳島 10
<香川県>	(頁)
1. 香川用水記念公園の慰霊碑 (三豊市)	香川 1
2. 宝山湖の碑 (三豊市)	香川 2
3. 新川河川激特事業竣工記念碑 (高松市)	香川 2
4. 香川用水記念公園の豊潤碑 (三豊市)	香川 2
5. 番の州高架橋下の慰霊碑 (坂出市)	香川 3
6. 大久保謙之丞翁碑 (三豊市)	香川 4
7. 大久保謙之丞像 (たからだの里) (三豊市)	香川 5
8. 大久保謙之丞像 (琴平公園) (琴平町)	香川 6
9. 日本の道 100 選の顕彰碑 (高松市)	香川 6
10. クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業 記念碑 (高松市)	香川 7
11. 瀬戸大橋竣工記念碑 (常盤公園) (坂出市)	香川 7
12. 大久保謙之丞像 (瀬戸大橋記念公園) (坂出市)	香川 8
13. 四国鉄道発祥の地碑 (多度津駅) (多度津町)	香川 8
14. 高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑 (高松市)	香川 8
15. 旧高松空港跡地の碑 (高松市)	香川 9
16. 新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑 (宇多津町)	香川 9
17. 宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑 (宇多津町)	香川 9
18. 真野池記の碑 (まんのう町)	香川 10
19. 松坡長谷川翁功德之碑 (まんのう町)	香川 10
20. 松崎渋谷衛門辞世の碑 (まんのう町)	香川 11
21. 軒原庄蔵像 (さぬき市)	香川 11
22. 満濃池配水塔碑 (まんのう町)	香川 11
23. 修拓記念碑 (まんのう町)	香川 12

	(頁)		(頁)
24. 昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑 (まんのう町)	香川 12	11. 内海ふれあいトンネル開通記念碑 (愛南町)	愛媛 6
25. 県営満濃池改良竣工記念碑 (まんのう町)	香川 12	12. 来島海峡サービスエリアの慰霊碑 (今治市)	愛媛 7
26. 県営金倉川沿岸用水改良事業完成記念碑 (まんのう町)	香川 13	13. サイクリストの聖地碑 (今治市)	愛媛 8
27. 満濃池世界かんがい施設遺産碑 (まんのう町)	香川 13	14. 堀切大橋の標識 (伊方町)	愛媛 8
28. 豊稔池碑 (観音寺市)	香川 13	15. 弓削大橋開通記念碑 (上島町)	愛媛 8
29. 豊稔池改修事業竣工記念碑 (観音寺市)	香川 14	16. 檜垣翁碑 (久万高原町)	愛媛 8
30. 石引池の香川用水通水碑 (東かがわ市)	香川 14	17. 檜垣伸翁の顕彰碑 (檜垣桜公園) (久万高原町)	愛媛 9
31. 佐文の香川用水記念碑 (まんのう町)	香川 14	18. 四国高速道路発祥之地記念碑 (三島公園) (四国中央市)	愛媛 9
32. 姥ヶ懐池の碑 (観音寺市)	香川 15	19. ゆめしま海道の碑 (上島町)	愛媛 10
33. 水穂香川用水善海通水記念碑 (高松市)	香川 15	20. 小林信近翁像の碑 (松山市)	愛媛 10
34. 讃岐財田駅創業 50 周年記念碑 (三豊市)	香川 15	21. 煉瓦橋のプレート (松山市景観形成重要建造物指定) (松山市)	愛媛 11
<愛媛県>		22. 壬生川港改修記念碑 (西条市)	愛媛 11
1. 柳瀬ダムの慰霊碑 (四国中央市)	愛媛 1	23. 中原町長頌功碑 (宇和島市)	愛媛 11
2. 新宮ダムの碑 (四国中央市)	愛媛 1	24. 大谷池記念碑 (伊予市)	愛媛 12
3. 三島公園の銅山川功労者頌徳碑 (四国中央市)	愛媛 2	25. 武智惣五郎氏頌徳碑 (伊予市)	愛媛 12
4. 三島公園の紀伊為一郎頌徳碑 (四国中央市)	愛媛 3	26. 大谷池築造殉職者慰霊塔 (伊予市)	愛媛 12
5. 戸川疏水公園の頌徳碑 (四国中央市)	愛媛 3	27. 武智惣五郎翁像 (伊予市)	愛媛 13
6. 戸川疏水公園の福田武太郎翁之像 (四国中央市)	愛媛 4	28. 大谷池改修事業記念碑 (伊予市)	愛媛 13
7. 肱川治水碑 (大洲市)	愛媛 5	29. 全国ため池百選記念碑 (伊予市)	愛媛 13
8. 古野小学校跡地の碑 (四国中央市)	愛媛 5	30. 石鎚の水ここに展く碑 (東温市)	愛媛 13
9. 除けの堰堤の標識 (東温市)	愛媛 5	31. 水徳治豫洲の碑 (久万高原町)	愛媛 14
10. 国道改築記念碑 (国道 197 号) (伊方町)	愛媛 6	32. 国道前道後平野農業水利 (二期) 事業完工碑 (東温市)	愛媛 14

	(頁)		(頁)
33. 志河川ダムの碑 (西条市)	愛媛 14	16. 四足峠トンネルの碑 (香美市)	高知 9
34. 佐古の恵水碑 (東温市)	愛媛 15	17. 四万十川橋之碑 (四万十市)	高知 10
35. 布喜川調整池の碑 (八幡浜市)	愛媛 15	18. はりまや交差点のダイヤモンドクロッシングの標識 (高知市)	高知 10
36. 南予用水碑 (八幡浜市)	愛媛 16	19. 高知県国鉄発祥の地碑 (須崎市)	高知 10
37. 南予用水農業水利事業完工之碑 (八幡浜市)	愛媛 16	20. 窪川駅の鉄道開通記念碑 (四万十町)	高知 11
38. 山緑水豊地の碑 (南予用水事業完工記念碑) (宇和島市)	愛媛 17	21. 土佐大正駅の予土線開通記念碑 (四万十町)	高知 12
39. 鉄道開通記念碑 (双岩駅) (八幡浜市)	愛媛 17	22. 安芸線電化開通記念碑 (南国市)	高知 12
		23. 豊永駅の鉄道開通記念碑 (大豊町)	高知 13
<高知県>		24. 佐川駅の国鉄開通 50 年記念碑 (佐川町)	高知 13
1. 四国のいのち碑 (土佐町)	高知 1	25. 高知海軍航空隊之碑 (南国市)	高知 13
2. 早明浦ダムの殉職者慰霊碑 (土佐町)	高知 1	26. 丸山台地の記念碑 (馬路村)	高知 13
3. 新中筋川通水記念碑 (四万十市)	高知 2	27. 加奈木の崩えの標識 (室戸市)	高知 14
4. 史蹟山田堰遺構の標識 (香美市)	高知 3	28. 佐喜浜川治山事業の記念碑 (室戸市)	高知 14
5. 永瀬ダムの銘板 (香美市)	高知 4		
6. 永瀬ダムの慰霊碑 (香美市)	高知 4		
7. 日下川放水路竣工記念碑 (日高村)	高知 5		
8. 大渡ダムの殉職碑 (仁淀川町)	高知 5		
9. 大渡ダム建設記念碑 (仁淀川町)	高知 6		
10. 渡川治水起工式記念碑 (四万十市)	高知 6		
11. 波介川河口導流事業通水記念碑 (土佐市)	高知 7		
12. 大渡ダム記念碑 (仁淀川町)	高知 8		
13. 神母閘門完成記念碑 (日高村)	高知 8		
14. 国道 197 号開通記念碑 (梶原町)	高知 8		
15. 笹木越の開道碑 (日高村)	高知 9		

## 徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島1	吉野川改修記念碑 	徳島県	吉野川市	河川	<p>■吉野川第一期改修工事(吉野川水系)</p> <p>吉野川第一期改修工事は、左岸林町岩津及び右岸川田町から海に至る約40kmの区間について、岩津地点における計画高水流量を13,900m<sup>3</sup>/sとした計画で、明治40年に着手し、大正10年に至る15箇年継続事業として行われた。善入寺島の買収などの問題もあり、起工式は明治44年9月となった。大正8年4月には上流の無堤部に対する堤防の新設及び右岸支川川田川改修を計画に追加して、4年間の工期延長を行った。関東大震災に伴う経費節減の余波を受け、大正15年竣工の予定が遅れて、昭和2年に完成した。</p> <p>吉野川市山瀬に吉野川改修記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島2</a>
徳島2	移転の碑 	徳島県	吉野川市	河川	<p>■善入寺島の遊水地化(吉野川水系)</p> <p>善入寺島は東西約6km、南北約1.2km、面積約500haに及ぶ吉野川最大の川中島で、大正初期には約500戸、3,000人が住んでいた。善入寺島は吉野川第一期改修工事で遊水地化されることになったが、明治42年に内務省が全島買収の方針を示すと、島民は計画変更するよう陳情した。しかし、内務省の方針は動かし得ず、明治45年には大部分が指定価格での買収に調印し、大正3年までに100余戸が立ち退き、大正4年には残り400戸に対して強制退去命令が出された。善入寺島の掘削工事は昭和2年1月に完了した。</p> <p>吉野川市城山に移転の碑が建立されている。</p> <p>■善入寺島の遊水池化(吉野川水系)</p> <p>善入寺島は現在の川島町、市場町にまたがる吉野川最大の川中島であり、東西約6km、南北1.2km、面積は約500haに及ぶ。明治40年当時は約500戸、約3,000人が住んでいたが、この島が狭窄部となっていたため、吉野川第一期改修事業の中で全島を遊水池化することが計画された。立ち退きを伴う全島買収は容易ではなく、明治45年の買収着手とともに反対運動が展開されたが、大正4年までに立ち退きは終了し、島民は新天地を求めて立ち去った。この事業は、吉野川改修史の中で特筆すべき大規模移転であった。</p> <p>吉野川市城山に移転の碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島4</a>
						<a href="#">河川徳島151</a>

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島3	川島排水機場の治水拓運碑 	徳島県	吉野川市	河川	<p>■川島排水機場(吉野川水系) 川島排水機場は桑村川の内水排除を目的として、昭和39年度に建設された排水能力12m<sup>3</sup>/sの機場で、四国地建で最初の排水機場である。ポンプ仕様は、口径1,600mmの横軸斜流ポンプで、6m<sup>3</sup>/s(全揚程3.3m時)の排水能力を持つポンプ2台である。設備完成後は、昭和53年度に除塵設備を手がきスクリーンから定置式自動除塵機に改良し、昭和62年度には揚排水ポンプ設備技術基準(案)に適合させるため、設備の更新等を行った。 川島排水機場前に治水拓運碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島28</a>
徳島4	旧吉野川河口堰の慰霊碑 	徳島県	徳島市	河川	<p>■旧吉野川河口堰(吉野川水系) 旧吉野川は、吉野川河口から15kmさかのぼった地点に設置された第十樋門により分派され、阿讃山脈より流下する宮川内谷川、黒谷川等を加え、北島町で右派今切川を分派し、両川とも蛇行しつつ紀伊水道に注ぐ緩やかな勾配をもつ河川である。旧吉野川河口堰は、洪水防御、流水の正常な機能の維持及び都市用水の取水を図る目的で、旧吉野川、今切川の下流部3k/4、8k/4にそれぞれ築造されたものである。本事業は昭和45年度に水資源開発公団により着手され、昭和51年3月に完成した。 今切川河口堰近くの水資源機構旧吉野川河口堰管理所前に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島45</a>
					<p>■旧吉野川河口堰(吉野川水系) 昭和45年に吉野川水系における水資源開発基本計画の一部変更が公示されて、旧吉野川河口堰建設事業が追加決定された。旧吉野川河口堰事業は、旧吉野川、今切川に旧吉野川河口堰及び今切川河口堰を築造することにより、洪水の防御、流水の正常な機能の維持及び都市用水の取水を目的とするものである。本事業の事業主体は水資源開発公団であり、工期は昭和44年4月～昭和51年9月であった。 今切川河口堰近くの水資源機構旧吉野川河口堰管理所前に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島46</a>
					<p>■旧吉野川河口堰建設事業(吉野川水系) 旧吉野川流域では、旧吉野川・今切川河口部に設けられた潮止樋門により管理された水位により塩害を防いでいるが、樋門が老朽化している。一方、本地域の都市化に伴い、工業用水・上水道用水の新規水需要が強要望されている。旧吉野川河口堰建設事業は、これらに対応するため、現潮止樋門付近に旧吉野川河口堰、今切川河口堰を新設するものである。昭和45年10月に実施計画が認可され、今切川河口堰は昭和46年6月に着工、49年7月竣工し、旧吉野川河口堰は昭和48年6月に着工、昭和50年10月竣工した。 今切川河口堰近くの水資源機構旧吉野川河口堰管理所前に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島159</a>

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島5	<p>北麓疎水碑</p> 	徳島県	三好市	河川	<p>■吉野川北岸農業水利事業(吉野川水系)</p> <p>吉野川北岸農業水利事業は、吉野川総合開発計画の一環として建設された池田ダムの上流左岸に取水施設を設けて、灌漑期最大14.8m<sup>3</sup>/s、非灌漑期最大2.01m<sup>3</sup>/sを取水し、池田町から板野町に至る延長約74kmの用水路を新設して、水田4,588haの用水補給と2,147haの畑地灌漑を行うとともにあわせて620haの樹園地の造成を行うものである。本事業は、昭和38年度に農林省による調査が始められ、昭和47年度に着工し、平成2年3月に完成した。</p> <p>池田取水工に北麓疎水碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島47</a>
				用水	<p>■吉野川北岸農業水利事業</p> <p>吉野川北岸農業水利事業は、池田町他11ヶ町の受益面積6,860haを対象として、農業用排水事業及び農地開発事業を併せ行う国営総合かんがい排水事業である。農業用排水事業は吉野川総合開発計画の一環として池田ダムから取水して池田町から板野町に至る延長69.2kmの水路に導水し5,030haの水田補給と1,780haの畑地かんがいを行うものである。農地開発事業は樹園地と普通畑をつくるため50haの農地造成を行うものである。吉野川北岸農業水利事業は昭和46年6月に事業施行され、平成元年8月に完工式を挙行、平成2年3月に完了した。</p> <p>池田取水工に北麓疎水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水徳島1</a>
徳島6	<p>善徳不動之碑</p> 	徳島県	三好市	河川	<p>■吉野川中流域直轄砂防事業(吉野川水系)</p> <p>昭和40年9月の豪雨により、祖谷川流域の大西地点で崩壊土量12万m<sup>3</sup>に及ぶ地すべり性崩壊をはじめ各所で崩壊が発生した。これを契機に、建設省は昭和44年度から直轄調査を開始し、昭和46年度から吉野川上流の高知県南小川地域とともに祖谷川流域が直轄施工区域となり、直轄砂防事業が開始された。さらに昭和57年度には、広大な面積を有する西祖谷山の善徳地すべり地域で直轄地すべり対策事業が開始されることになった。</p> <p>三好市西祖谷村善徳に善徳不動之碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島48</a>
					<p>■善徳地区の地すべり対策事業(吉野川水系)</p> <p>善徳地すべり地域は、祖谷川の中流部に位置し、善徳・今久保の2区域に分けられる。地すべり防止区域の面積は220.9haで、日本でも最大級の破碎帯地すべりである。昭和27年度から徳島県により事業が着手され、昭和34年に地すべり防止区域に指定された。昭和57年度より直轄地すべり対策事業が行われるようになった。直轄事業では、地すべりの動き、保全対象の重要度などからブロック毎に整備優先度を定め、集中投資を行い、コスト縮減などにより効率化を図る。整備期間は昭和57年度～平成57年度で、平成28年度末現在で事業進捗率は約55%である。</p> <p>三好市西祖谷村善徳に善徳不動之碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島65</a>
					<p>■西祖谷山村の直轄砂防事業(吉野川水系)</p> <p>西祖谷山村は中央構造線と御荷鉾構造線の2つの大断層線にはさまれて複雑な地層を成し、地すべりや地すべり性崩壊が多く、破碎帯地すべりの多発地として知られている。直轄砂防工事は昭和53年7月に栗寄谷堰堤に着手したのを最初に、これまで砂防堰堤10基、流路工1箇所、護岸2箇所を完成した。また、善徳地すべり地域は、昭和57年度に徳島県から建設省の直轄地すべり防止区域に編入された。平成元年には災害関連緊急事業が完成したが、さらに各種の対策工法を実施して地すべりの安定に努めている。</p> <p>三好市西祖谷村善徳に善徳不動之碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島121</a>

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島7	<p>やすらぎの大地碑</p> 	徳島県	三好市	河川	<p>■吉野川中流域直轄砂防事業(吉野川水系)</p> <p>昭和40年9月の豪雨により、祖谷川流域の大西地点で崩壊土量12万㎡に及ぶ地すべり性崩壊をはじめ各所で崩壊が発生した。これを契機に、建設省は昭和44年度から直轄調査を開始し、昭和46年度から吉野川上流の高知県南小川地域とともに祖谷川流域が直轄施工区域となり、直轄砂防事業が開始された。さらに昭和57年度には、広大な面積を有する西祖谷山の善徳地すべり地域で直轄地すべり対策事業が開始されることになった。</p> <p>三好市西祖谷村善徳にやすらぎの大地碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島48</a>
					<p>■善徳地区の地すべり対策事業(吉野川水系)</p> <p>善徳地すべり地域は、祖谷川の中流部に位置し、善徳・今久保の2区域に分けられる。地すべり防止区域の面積は220.9haで、日本でも最大級の破碎帯地すべりである。昭和27年度から徳島県により事業が着手され、昭和34年に地すべり防止区域に指定された。昭和57年度より直轄地すべり対策事業が行われるようになった。直轄事業では、地すべりの動き、保全対象の重要度などからブロック毎に整備優先度を定め、集中投資を行い、コスト縮減などにより効率化を図る。整備期間は昭和57年度～平成57年度で、平成28年度末現在で事業進捗率は約55%である。</p> <p>三好市西祖谷村善徳にやすらぎの大地碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島65</a>
					<p>■西祖谷山村の直轄砂防事業(吉野川水系)</p> <p>西祖谷山村は中央構造線と御荷鉾構造線の2つの大断層線にはさまれて複雑な地層を成し、地すべりや地すべり性崩壊が多く、破碎帯地すべりの多発地として知られている。直轄砂防工事は昭和53年7月に栗寄谷堰堤に着手したのを最初に、これまで砂防堰堤10基、流路工1箇所、護岸2箇所を完成した。また、善徳地すべり地域は、昭和57年度に徳島県から建設省の直轄地すべり防止区域に編入された。平成元年には災害関連緊急事業が完成したが、さらに各種の対策工法を実施して地すべりの安定に努めている。</p> <p>三好市西祖谷村善徳にやすらぎの大地碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島121</a>
徳島8	<p>一の堰記念碑</p> 	徳島県	阿南市	河川	<p>■一の堰改築事業(那賀川水系)</p> <p>一の堰は、桑野川下流右岸の阿南市富岡町、見能林町及び才見町地域にかんがい用水を供給する取水堰である。昭和21年の南海地震等により堰の一部が崩壊流失するなどしたため、徳島県は災害復旧事業として2代目の一の堰を完成した。その後、桑野川の改修計画に伴い、一の堰の改築が必要となり、3代目の一の堰は3ヶ年の国庫債務負担工事として昭和41年1月に着手し、昭和43年末に完成した。3代目の一の堰はスパン20.05m、高さ2.7mのローラーゲート3門を有する堰長115mの橋梁併用堰である。</p> <p>一の堰近くに一の堰記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島53</a>
徳島9	<p>ガマン堰跡の標識</p> 	徳島県	阿南市	河川	<p>■戦前の那賀川改修工事(那賀川水系)</p> <p>那賀川は昭和4年に国の直轄事業として着手された。この改修工事では、派川岡川分派口(ガマン堰)を締め切って本川と分離し、下流で桑野川の水位低下を図るとともに、那賀川本川は全面的に河積を広げ、旧堤を拡築するほか、引堤や掘削などにより、計画高水流量8,500㎡/sの疎通を図るのが主な内容であった。ガマン堰は本川の洪水流量の約1/3を分派していたので、本川の出水ごとに甚大な被害を繰り返していたが、昭和18年度に締め切られ、岡川沿川は本川の直接の洪水から防護されるようになった。</p> <p>阿南市下大野町にガマン堰跡の標識が建てられている。</p>	<a href="#">河川徳島56</a>

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■ガマン堰の締切(那賀川水系)                      ガマン堰は、明治2年に那賀川南岸の下大野から派川岡川への分派口につくられた石積の堰で、洪水時には洪水量の3分の1だけを岡川に流入させる越流堰であった。ガマン堰があることにより、本川の左岸及び下流の洪水量を少なくして被害を軽減させた反面、岡川は疎通能力が小さいため、岡川沿岸では洪水の度に氾濫を起こし、甚大な被害を被っていた。那賀川改修事業では、このガマン堰を完全に締切る計画となっており、昭和17年度に着工、昭和18年度に締切が完成した。                      阿南市下大野町にガマン堰跡の標識が建てられている。</p>	<a href="#">河川徳島59</a>
					<p>■中野島村の那賀川改修工事(那賀川水系)                      大正7年に中西宇右衛門は那賀川治水に関する方策を「川南灌漑論」と題して論じ、世論を起こすとともに政府に対しても運動につとめた。これが那賀川南岸改修と南岸用水を開くに至った原動力である。昭和12年3月、衆議院に那賀川改修工事促進に関する建議案が提出され、那賀川堤防工事は昭和17年から始められ、今日もなお続けられている。計画の内容は、ガマン堰止め工事(昭和17年6月着手、昭和19年7月竣工)及び築堤工事(延長21,411.1m)である。                      阿南市下大野町にガマン堰跡の標識が建てられている。</p>	<a href="#">河川徳島128</a>
徳島10	林村築堤記念碑 	徳島県	阿波市	河川	<p>■吉野川第一期改修工事(吉野川水系)                      吉野川の第一期改修工事は明治40年に着手され、昭和2年に竣工した。これは、岩津の狭窄部より下流部河口までの連続堤防を建設すること、第十樋門の建設により現在の旧吉野川を締め切り、当時別宮川と呼ばれた第十堰下流の直線河道を本流とすること、善入寺島を全島買収し遊水地とすることなどを骨子としている。この工事は現在の吉野川の治水施設の基礎を形作った根本的な事業であり、以後、吉野川本川堤防の破堤の記録はない。徳島県の昭和以降の社会的、経済的発展を支えたのは第一期改修工事の成果である。                      阿波市の岩津橋下流に林村築堤記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川徳島133</a>
徳島11	舞中島治水の歴史の標識 	徳島県	美馬市	河川	<p>■舞中島の築堤工事(吉野川水系)                      吉野川第一期改修工事完了後も遊水地帯として放置されていた岩津上流の関係町村は、昭和29年の台風12号災害を契機に吉野川遊水対策期成同盟会を結成し、陳情活動を行った。この活動は、昭和40年に吉野川が一級河川に指定されたのを受けて、吉野川上流改修促進期成同盟会に継承され、吉野川上流部で早明浦ダム、池田ダムなどが建設され、洪水調節を行い、岩津～池田間の無堤防地区でも築堤工事が行われることになった。舞中島の築堤工事(3,640.1m)は昭和44年度に着工し、昭和52年度に完成した。                      舞中島の西端に舞中島治水の歴史の標識が建てられている。</p>	<a href="#">河川徳島141</a>

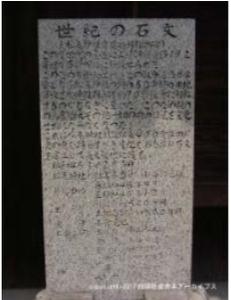
徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島12		徳島県	三好市	河川	<p>■香川用水事業(吉野川水系)</p> <p>香川用水事業は、池田ダム上流左岸に取水施設を設け、阿讃山脈を貫いて8kmの導水トンネルにより香川県財田町に分水し、これから東西に伸びる幹線水路で東部は大川郡白鳥町、西部は三豊郡豊浜町まで導水するものである。この分水事業は、灌漑用水及び都市用水として、灌漑期平均12.5m<sup>3</sup>/s(最大15.8m<sup>3</sup>/s)、非灌漑期平均5.5m<sup>3</sup>/s(最大6.0m<sup>3</sup>/s)の供給を行うもので、昭和43年度から水資源開発公団により事業に着手され、昭和50年3月に完成した。 池田ダムの香川用水取水工に「四国は一つ碑」が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川1</a>
					<p>■香川用水事業(吉野川水系)</p> <p>香川用水は、池田ダムの上流1.8kmに設けた取水工より導水し、阿讃山脈を貫く約8kmの導水トンネルにより香川県に導き、別に国が行った国営香川用水農業水利事業等と相まって、讃岐平野の農地に対し必要なかんがい用水の補給を行うとともに、香川県の水道用水及び工業用水の供給を行うため、香川用水路約106kmのうち、農業用水、水道用水、工業用水が共有する供用区間延長約47kmを建設したものである。工期は昭和43年10月～昭和50年3月である。 池田ダムの香川用水取水工に「四国は一つ碑」が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川2</a>
				用水	<p>■香川用水事業</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで新たに開発された水を、池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって東部は白鳥町、西部は豊浜町まで導水して農業用水、都市用水に利用するものである。幹線水路工事のうち、農業用水、都市用水の共用区間は水資源開発公団営、農業専用区間は国営(農林省)で施工することになり、昭和43年10月に起工式を行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。 池田ダムの香川用水取水工に「四国は一つ碑」が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川1</a>
					<p>■公団営幹線水路工事(香川用水)</p> <p>香川用水事業は、農業用水と都市用水の共用区間は公団営(水資源開発公団)が、農業専用区間は国営(農林省)で行うことになった。水資源開発公団が担当する香川用水共用区間は取水工、導水幹線、東西分水工、東部幹線、高瀬支線に関係する施工延長約46.8kmであった。水資源開発公団吉野川開発局は昭和43年10月に香川用水建設所及び財田出張所を設置し、本格的に工事に着手した。昭和47年度完了を目途として進められたが、池田ダム工事の遅延等により、工事完了は昭和49年度となった。 池田ダムの香川用水取水工に「四国は一つ碑」が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川2</a>
徳島13	<p>日本の道100選顕彰碑</p> 	徳島県	徳島市	道路	<p>■吉野川バイパス(国道11号)</p> <p>徳島市及び周辺の交通渋滞対策として、昭和38年度に吉野川バイパス事業に着手した。特に吉野川橋が隘路になっていたため、昭和43年には吉野川大橋の下部工に着工し、その後、順次工事を進め、昭和47年7月の部分供用を始めとし、昭和61年3月には全線暫定供用、平成8年9月に全線完成供用した。吉野川バイパスは渋滞対策のほか、その後計画された四国縦貫自動車道や本州四国連絡道路とのネットワークを形成し、地域活性化に資するためにも欠くことのできない道路となっている。 吉野川大橋の南詰に、吉野川バイパスが日本の道100選に選定された時の顕彰碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路徳島1</a>

## 徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■吉野川大橋(国道11号) 吉野川大橋は徳島市東吉野町2丁目と川内町の吉野川に架かる全長1,137mの橋で、吉野川橋の交通渋滞を解消し、幹線交通網を整備する国道11号バイパス事業の一環としてつくられた。昭和47年に上流側3車線が開通し、二期工事として下流側3車線の橋が昭和56年に着工、昭和61年12月に完成した。上りと下りの2本の橋の全面開通によって橋周辺の渋滞は緩和されたが、昼間の交通量は約1万台増加した。川内町など国道11号バイパスの周辺には商店、事業所等が進出し、田園地帯は急速に変貌を遂げつつある。 吉野川大橋の南詰に、吉野川バイパスが日本の道100選に選定された時の顕彰碑が建立されている。</p> <p>■徳島市の吉野川バイパス(国道11号) 国道11号吉野川橋の交通渋滞を解消するため、吉野川バイパスの建設が開始された。吉野川バイパスは、かちどき橋南詰の起点から、吉野川大橋、新加賀須野橋を経て、鳴門市北灘町櫛木で国道11号に合流する延長16.9kmの道路である。吉野川バイパスは段階的に建設が進められ、昭和47年7月に北常三島町交差点～吉野川大橋北詰間の片側線、昭和48年11月にかちどき橋南詰～北常三島町交差点の全線が供用された。川内町～松茂町広島間の供用が開始されたのは昭和55年10月である。 吉野川大橋の南詰に、吉野川バイパスが日本の道100選に選定された時の顕彰碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路徳島53</a></p> <p><a href="#">道路徳島69</a></p>
徳島14	豊川翁之碑 	徳島県	徳島市	道路	<p>■吉野川橋(旧国道11号) 吉野川橋が古川橋と呼ばれていた時には、木橋の賃取橋で、毎年のように吉野川の出水による被害を受け、交通の途絶をまねいていた。大正10年に県会で古川橋は永久橋への架け替えが決定し、大正13年に徳島県は豊川仲太郎から賃取橋の経営権を買収し、県営とした後、下流100mの地点で大正14年11月に新橋の架設を着工した。1,079.89m、幅員6.06mの鉄筋コンクリート曲弦ワーレン式の鉄橋は、完成直前に吉野川橋と改称され、昭和3年12月に完成した。開通式では祝賀行事が催され、4万人の群衆が集まった。 吉野川橋の北側に豊川翁之碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路徳島52</a></p>
徳島15	民益碑 	徳島県	三好市	道路	<p>■三好新道 四国新道のうち徳島県を通過する部分が三好新道である。三好新道(31.4km)は明治19年3月に起工し、明治23年3月に完成した。池田町では、明治19年春に東洲津赤鳥居に県土木出張所が設けられ、蔵谷付近の難工事が竣工、明治20年春には落まで開通し、4年後に猪ノ鼻峠の掘削工事も竣工した。四国新道は、明治28年には国道32号線、大正8年には国道23号線、昭和27年に国道32号線となった。三好新道の開設に努力し、偉大な功績を残した人として大久保謙之丞と武田覚三があげられる。 三好市ヤマダに三好新道の民益碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路徳島57</a></p>

## 徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島16	武田覚三の顕彰碑 	徳島県	美馬市	道路	<p>■三好新道 四国新道のうち徳島県を通過する部分が三好新道である。三好新道(31.4km)は明治19年3月に起工し、明治23年3月に完成した。池田町では、明治19年春に東洲津赤鳥居に県土木出張所が設けられ、蔵谷付近の難工事が竣工、明治20年春には落まで開通し、4年後に猪ノ鼻峠の掘削工事も竣工した。四国新道は、明治28年には国道32号線、大正8年には国道23号線、昭和27年に国道32号線となった。三好新道の開設に努力し、偉大な功績を残した人として大久保謙之丞と武田覚三があげられる。美馬市の東林寺に武田覚三の顕彰碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路徳島57</a>
徳島17	名田橋の記念碑 	徳島県	徳島市	道路	<p>■名田橋 名田橋は主要地方道德島引田線が吉野川を跨ぐ徳島市不動町～藍住町に架設された橋長800m、有効幅員8mの橋梁である。名田渡船で連絡している箇所に永久橋を架設することは、下流6kmにある吉野川橋の飽和交通量の緩和を図るとともに、徳島市と高松市を連絡する最短路線として期待されてきた。徳島県では昭和32、33年に架設計画に基づく調査を行い、名田渡船の上流400mに架設地点を定め、昭和34年度より国庫補助により事業に着手し、昭和37年度に竣工した。ディビダーク工法によるPC橋である。名田橋の南詰に記念碑が設置されている。</p>	<a href="#">道路徳島65</a>
徳島18	松尾神社の「世紀の石文」碑 	徳島県	つるぎ町	道路	<p>■貞光町の国道192号 国道192号の旧道は、太田地区で冠水したり、全般的に幅員が狭く、カーブも多いことから、大型車両の通過や交通量の増加に対応できなくなってきた。このため、吉野川沿いに吉野川堤防との併設工事として新設されたのが、現在の国道192号である。昭和45年に半田町境から江ノ脇地区間が完成し、昭和54年8月に江ノ脇から道満地区間も完成し、町内区間4,253m全線が整備された。これにより、旧国道のうち、半田・貞光線は昭和47年3月に県道となり、太田幹線は町道に移管された。松尾神社境内に、国道192号新設に伴い松尾神社が移転されたことを記す碑「世紀の石文」が建立されている。</p>	<a href="#">道路徳島85</a>

## 徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島19	平和之碑 	徳島県	阿南市	鉄道	<p>■那賀川橋梁(JR牟岐線)</p> <p>那賀川橋梁は、橋長470.65m、1径間46.2m、トラスト幅5m、高さ4mの直弦ワーレントラスが10連並ぶ橋梁で、昭和11月3月に完成した。完成当時、付近には渡し船しかなかったため、通行にこの橋を利用する人が絶えず、列車による人身事故が多発した。このため、県は国鉄と協議して、昭和49年に橋の両側に幅1.5mの歩道橋を付け、県道大林那賀川線として管理している。昭和20年7月、米海軍のグラマン戦闘機2機が飛来、那賀川橋梁を南進中の4両編成の列車に機銃掃射を浴びせ、30人を超える乗客が死亡した。</p> <p>那賀川橋梁の北側に平和之碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道徳島30</a>
徳島20	阿佐海岸鉄道開通記念之碑 	徳島県	海陽町	鉄道	<p>■阿佐東線(阿佐海岸鉄道)</p> <p>阿佐東線は大正11年に施設予定鉄道路線となったが、牟岐～後免間が工事線に採択されたのは昭和34年であった。牟岐～海部間は昭和48年10月に完成し、国鉄牟岐線として開業した。昭和49年4月に鉄建公団が海部～野根間の工事を再開し、昭和55年2月までに海部～穴喰間6.1kmのレールが繋がり、穴喰～甲浦間2.1kmの路盤工事が終わった。しかし、国鉄再建法により阿佐東線は凍結され、海部～甲浦間は第三セクター方式で開業させることになり、平成元年3月に工事が再開、平成4年3月に阿佐海岸鉄道が開通した。</p> <p>海部駅に阿佐海岸鉄道開通記念之碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道徳島38</a>
徳島21	山田隆二翁碑 	徳島県	阿南市	鉄道	<p>■牟岐線羽ノ浦～牟岐間(JR牟岐線)</p> <p>昭和2年11月に県南の関係町村により四国循環鉄道阿土海岸線期成同盟会が設立され、実現運動が開始された。政変などにより建設は繰り延べされたが、阿土海岸線羽ノ浦～桑野間の工事は昭和8年に着手され、昭和11年3月に竣工した。その後、桑野以南の敷設工事が順次進められ、桑野～阿波福井間が昭和11年6月に、阿波福井～日和佐間が昭和14年12月に、日和佐～牟岐間が昭和17年7月に営業を開始した。ここに羽ノ浦～牟岐間50kmの敷設工事が完成し、徳島～牟岐駅間を牟岐線と呼ぶことになった。</p> <p>牟岐線敷設に功績のあった山田隆二翁碑が阿波中島駅前に建立されている。</p>	<a href="#">鉄道徳島49</a>
					<p>■牟岐線羽ノ浦～牟岐間(JR牟岐線)</p> <p>昭和11年7月に阿南鉄道中田～羽ノ浦間が国鉄に買収されたが、すでに同年3月には国鉄羽ノ浦～桑野間が開業していたため、この買収により中田～桑野間が国鉄一本となった。さらに昭和12年6月には桑野～阿波福井間、昭和14年12月には阿波福井～日和佐間が開業し、昭和17年7月に日和佐～牟岐間が開業して牟岐線が全通した。</p> <p>牟岐線敷設に功績のあった山田隆二翁碑が阿波中島駅前に建立されている。</p>	<a href="#">鉄道徳島50</a>

徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
徳島22	国営北岸用水碑 	徳島県	阿南市	用水	<p>■那賀川北岸農業水利事業</p> <p>那賀川北岸地区では上広瀬堰、下広瀬堰、大井手堰から引水して2,500町歩にわたって灌漑していたが、昭和13年頃より改修の要望が高まった。3堰を統合して幹線水路を新設する計画が立てられ、昭和23年7月に農林省が国営事業として着手し、昭和30年1月に3堰を統合した新しい堰と幹線水路(3,373m)が完成した。続いて国営附帯・県営事業が着手され、用水路(13,333m)が昭和38年度末に完成した。さらに那賀川北岸土地改良区が団体営事業により支線水路(4,974m)の改修を行い、昭和46年度に竣工した。</p> <p>北岸堰の北側に国営北岸用水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水徳島4</a>
徳島23	徳島における近代港発祥の地碑 	徳島県	小松島市	港湾・空港	<p>■村営事業期(明治32年～大正元年)の小松島港</p> <p>明治26年12月に小松島村長らが県知事に小松島築港を建議したが、日清戦争が突発したため、一時下火になった。明治32年に村会で決議され、築港工事が実施されることになった。明治32年9月の勝浦川の決壊も港の修築に拍車をかける要因となり、神田瀬川口の3,000坪の浚渫、湊口・横須の埋立、南根井側から100間及び外開側から50間の投石による波除止(両方で1,020坪)の建設が行われ、明治33年10月に第一期工事が完了した。この時浚渫した土砂は、港町(現南小松島の一部)、東側の水面の埋立に使われた。</p> <p>小松島港に「徳島における近代港発祥の地碑」が建立されている。</p> <p>■明治～大正2年までの小松島港</p> <p>小松島港は古くから港として栄えていたが、明治20年に阿波国共同汽船会社が古川口(吉野川河口)に港を設け、兵庫大阪行の船が就航した結果、小松島港は一時火が消えたような状況になった。明治26年に徳島藍商人によって小松島旧港の築港工事が取り上げられ、大がかりな底ざらえを行い、明治33年11月に小松島港と徳島を結ぶ定期航路が開始され、明治34年には小松島～和歌山航路が開かれた。明治44年に神田瀬川北岸に400～500トン級船舶が接岸できる築港工事に着手、大正2年4月に完成した。</p> <p>小松島港に「徳島における近代港発祥の地碑」が建立されている。</p> <p>■県営事業期(大正2年～大正10年)の小松島港</p> <p>大正2年に阿波国共同汽船株式会社が徳島～小松島間に軽便鉄道を敷設したと同時に、鉄道院がこの軽便鉄道を借り上げたことなどから、阪神への航路としての小松島港の整備が急務となった。徳島県は大正2年から4ヶ年継続事業として内港部の整備に着手した。さらに大正6年～10年に港口の南北突堤を増築、港口の有効幅員を90mに拡張し、港内浚渫によって1,000トン級の汽船の出入が自由にできるようになった。</p> <p>小松島港に「徳島における近代港発祥の地碑」が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港徳島1</a>  <a href="#">港湾・空港徳島2</a>  <a href="#">港湾・空港徳島3</a>

## 徳島県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■第一次国営事業期(大正12年～昭和9年)の小松島港</p> <p>大正10年6月、第二種重要港湾指定を転機として、小松島港は国営事業の新段階に入った。神田瀬川口を利用した内港は狭隘になり、港域の拡張修築のため、大正12年11月から昭和9年5月にかけて、内務省の直接施行により東・南・北の防波堤の建設、村営時代の旧防波堤の除去、物揚場・岸壁の建設、浚渫、埋立地造成等の工事を行い、小松島港の中心部が形成されて新港と称せられることになった。これにより南北の岸壁には3,000トン級の船舶の係船が可能となった。これ以降、神田瀬川口の部分を旧港ということになる。</p> <p>小松島港に「徳島における近代港発祥の地碑」が建立されている。</p>	<p><a href="#">港湾・空港徳島4</a></p>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川1	香川用水記念公園の慰霊碑 	香川県	三豊市	河川	<p>■香川用水事業(吉野川水系)</p> <p>香川用水事業は、池田ダム上流左岸に取水施設を設け、阿讃山脈を貫いて8kmの導水トンネルにより香川県財田町に分水し、これから東西に伸びる幹線水路で東部は大川郡白鳥町、西部は三豊郡豊浜町まで導水するものである。この分水事業は、灌漑用水及び都市用水として、灌漑期平均12.5m<sup>3</sup>/s(最大15.8m<sup>3</sup>/s)、非灌漑期平均5.5m<sup>3</sup>/s(最大6.0m<sup>3</sup>/s)の供給を行うもので、昭和43年度から水資源開発公団により事業に着手され、昭和50年3月に完成した。 香川用水記念公園に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川1</a>
					<p>■香川用水事業(吉野川水系)</p> <p>香川用水は、池田ダムの上流1.8kmに設けた取水工より導水し、阿讃山脈を貫く約8kmの導水トンネルにより香川県に導き、別に国が行った国営香川用水農業水利事業等と相まって、讃岐平野の農地に対し必要なかんがい用水の補給を行うとともに、香川県の水道用水及び工業用水の供給を行うため、香川用水路約106kmのうち、農業用水、水道用水、工業用水が共有する供用区間延長約47kmを建設したものである。工期は昭和43年10月～昭和50年3月である。 香川用水記念公園に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川2</a>
					<p>■香川用水事業</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで新たに開発された水を、池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって東部は白鳥町、西部は豊浜町まで導水して農業用水、都市用水に利用するものである。幹線水路工事のうち、農業用水、都市用水の供用区間は水資源開発公団営、農業専用区間は国営(農林省)で施工することになり、昭和43年10月に起工式を行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。 香川用水記念公園に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川26</a>
				用水	<p>■香川用水事業</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで新たに開発された水を、池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって東部は白鳥町、西部は豊浜町まで導水して農業用水、都市用水に利用するものである。幹線水路工事のうち、農業用水、都市用水の共用区間は水資源開発公団営、農業専用区間は国営(農林省)で施工することになり、昭和43年10月に起工式を行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。 香川用水記念公園に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川1</a>
					<p>■公団営幹線水路工事(香川用水)</p> <p>香川用水事業は、農業用水と都市用水の共用区間は公団営(水資源開発公団)が、農業専用区間は国営(農林省)で行うことになった。水資源開発公団が担当する香川用水共用区間は取水工、導水幹線、東西分水工、東部幹線、高瀬支線に係る施工延長約46.8kmであった。水資源開発公団吉野川開発局は昭和43年10月に香川用水建設所及び財田出張所を設置し、本格的に工事に着手した。昭和47年度完了を目途として進められたが、池田ダム工事の遅延等により、工事完了は昭和49年度となった。 香川用水記念公園に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川2</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川2	宝山湖の碑 	香川県	三豊市	河川	<p>■香川用水施設緊急改築(吉野川水系)</p> <p>香川用水施設緊急改築は、緊急に対策が必要な水路施設等を改築し、水の安定供給と施設の安全性の確保を図るとともに、事故時・地震時等の緊急水源・代替水源として活用し、さらに渇水による断水等の影響緩和を可能とする調整池を設置するものである。工期は、共用施設が平成11年度～平成17年度、専用施設が平成11年度～平成20年度(予定)である。</p> <p>宝山湖のほとりに宝山湖の碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川21</a>
香川3	新川河川激特事業竣工記念碑 	香川県	高松市	河川	<p>■新川河川激特事業</p> <p>昭和62年10月の台風19号により、新川及びその支流吉田川流域では24時間最大雨量475ミリを記録し、三木町及び高松市で約870haが浸水し、浸水家屋が4,216戸に上った。新川では昭和38年度から中小河川事業として改修が行われてきたが、この災害を契機に香川県では昭和62年12月に河川激甚災害対策特別事業の採択を受けた。新川河川激特事業は、本川L=9.0kmと支川吉田川L=1.6kmを合わせた総延長約10.6kmの区間に対し、築堤320,000㎡、護岸21.2km、潮止堰1基等の工事を行い、平成6年3月に完了した。</p> <p>新川河口に新川河川激特事業竣工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川22</a>
香川4	香川用水記念公園の豊潤碑 	香川県	三豊市	河川	<p>■香川用水事業(吉野川水系)</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで新たに開発された水を、池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって東部は白鳥町、西部は豊浜町まで導水して農業用水、都市用水に利用するものである。幹線水路工事のうち、農業用水、都市用水の供用区間は水資源開発公団営、農業専用区間は国営(農林省)で施工することになり、昭和43年10月に起工式を行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。</p> <p>香川用水記念公園に豊潤碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川香川26</a>
				用水	<p>■香川用水事業</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで新たに開発された水を、池田ダムに取水施設を設けて取水し、阿讃山脈を貫く8kmの導水トンネルで財田町に導き、ここから東西に延びる幹線水路によって東部は白鳥町、西部は豊浜町まで導水して農業用水、都市用水に利用するものである。幹線水路工事のうち、農業用水、都市用水の共用区間は水資源開発公団営、農業専用区間は国営(農林省)で施工することになり、昭和43年10月に起工式を行い、公団営は昭和49年度に、また国営は昭和52年度に完了した。</p> <p>香川用水記念公園に豊潤碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川1</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■公団営幹線水路工事(香川用水)</p> <p>香川用水事業は、農業用水と都市用水の共用区間は公団営(水資源開発公団)が、農業専用区間は国営(農林省)で行うことになった。水資源開発公団が担当する香川用水共用区間は取水工、導水幹線、東西分水工、東部幹線、高瀬支線に関係する施工延長約46.8kmであった。水資源開発公団吉野川開発局は昭和43年10月に香川用水建設所及び財田出張所を設置し、本格的に工事に着手した。昭和47年度完了を目途として進められたが、池田ダム工事の遅延等により、工事完了は昭和49年度となった。</p> <p>香川用水記念公園に豊潤碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川2</a>
香川5	<p>番の州高架橋下の慰霊碑</p> 	香川県	坂出市	道路	<p>■番の州高架橋(瀬戸中央自動車道)</p> <p>番の州高架橋は、南備讃瀬戸大橋の四国側アンカレイジ7Aを起点とする延長約2,940mの高架橋である。本橋は地盤が悪く、かつ高橋脚という条件が重なり、列車走行の安全性を確保するために動的解析など種々の検討を行った。その結果、橋脚高(41m~81m)に比べて比較的スパンが短い(約72m)構造物となっている。上部工は、起点側の3径間が中央支間長180mの連続鋼トラス、その他は3~5径間連続の鋼箱桁(道路)、PC桁(鉄道)である。工期は昭和55年度~63年度である。</p> <p>番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p> <p>■瀬戸中央自動車道</p> <p>児島~坂出ルートの起工は昭和48年に予定されていたが、石油危機の影響により延期となり、昭和53年10月に起工式が行われた。昭和61年6月に岩黒島橋、同年9月に与島橋、同年10月に櫃石島橋、昭和62年3月に北備讃瀬戸大橋、同年4月に下津井瀬戸大橋の橋桁が次々と閉合、同年8月の南備讃瀬戸大橋の閉合で海峡部の橋桁がすべてつながり、本州と四国が陸続きとなった。その後、海峡部、陸上部とも道路舗装や軌道の敷設などの工事が行われ、昭和63年4月に瀬戸中央自動車道が開通した。</p> <p>番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p> <p>■児島~坂出ルート(本州四国連絡道路)</p> <p>本州四国連絡道路児島~坂出ルートは、昭和48年10月に工事実施計画の認可を受けたが、石油ショックにより一時延期された。その後、工事凍結が解除され、昭和53年10月に起工して以来、四つ目トンネル(上段:道路、下段:鉄道)がつくられ、さらに海峡部の道路・鉄道供用区間は主要6橋としての吊橋3橋、斜張橋2橋、トラス橋1橋と島しょ部の高架橋が種々の特殊土木技術を開発しながら昭和62年8月に連絡し、本州と四国が陸続きとなった。工事は昭和62年度末に完了し、昭和63年4月に道路、鉄道とも供用した。</p> <p>番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路香川28</a></p> <p><a href="#">道路香川36</a></p> <p><a href="#">道路香川46</a></p>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■児島～坂出ルート(本州四国連絡道路) 本州四国連絡道路児島・坂出ルートは、昭和48年10月に工事实施計画の認可を受けたが、石油ショックにより一時延期された。昭和50年8月に児島・坂出ルートを含む「1ルート3橋」の凍結解除が決定された。児島・坂出ルートは、道路と鉄道からなり、道路は早島IC・坂出IC間37.3km、鉄道は茶屋町駅・宇多津駅間32.4kmである。途中の海峡部を含む区間13.1kmは、上が道路、下が鉄道の供用部となっている。児島・坂出ルートは昭和53年10月に起工し、瀬戸中央自動車道は昭和63年4月に供用を開始した。 番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川47</a>
					<p>■瀬戸大橋(瀬戸中央自動車道) 瀬戸大橋は本州四国連絡橋・児島～坂出ルートの道路と鉄道の併用橋である。瀬戸大橋は昭和48年11月に着工予定であったが、オイルショックにより延期になり、昭和53年10月に着工した。その後、水中発破、設置ケーソン工法、緩衝桁軌道伸縮装置など数々の新工法を開発することなどにより難工事を克服し、着工以来9年半の歳月と1兆1,300億円(計画ベース)の費用をかけて、昭和63年4月に開通した。岡山・香川両県では瀬戸大橋博覧会が開催され、観光客も大幅に増加した。 番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川92</a>
				鉄道	<p>■番の州高架橋(JR本四備讃線) 番の州高架橋は、南備讃瀬戸大橋の四国側アンカレイジ7Aを起点とする延長約2,940mの高架橋である。最初の480mは、3径間連続鋼トラス橋(150m+180m+150m)、そこから先は3～5径間連続の高架橋で、上段は道路用の鋼連続箱桁橋、下段は鉄道用のPC連続箱桁橋である。番の州高架橋は、南備讃瀬戸大橋に接続しており、また番の州が埋め立て地の地盤が海面上3m程度と低い平地であることから、構造物の地上高が非常に高くなっている。 番の州高架橋下に慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道香川35</a>
香川6	大久保謙之丞翁碑 	香川県	三豊市	道路	<p>■讃岐新道(国道32号) 讃岐新道(丸亀、多度津～猪ノ鼻峠38.4km)は、大久保謙之丞が構想し実現に尽力した四国新道の一部で、特に秀でている点は広大な幅員(3.5～4間)で、自動車のなかった時代を考えると、その先見性は特筆に値するものである。明治19年に着工した讃岐街道は明治21年には多度津・猪ノ鼻の讃岐分がほとんど完成して馬車が通行できるようになった。讃岐街道は明治23年3月に阿波街道と通じ、大正8年の道路法制定により国道23号線に編入され、昭和27年の道路法改正により国道32号となった。 三豊市財田の国道32号沿いに大久保謙之丞翁碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川29</a>
					<p>■四国新道(国道32号) 四国新道の路線ルートは、丸亀、多度津、善通寺、琴平から阿波池田を経て高知、須崎に達し、さらに佐川、松山、三津浜と連なる四国全県にまたがる幹線道路である。大久保謙之丞は四国新道に深い関心を持ち、計画を立て、世論に訴え、賛同者を集めると、自費を注ぎ込んで測量等の準備作業を進め、明治19年2月に工事を開始した。未だ鉄道も自動車もなく、ほとんど人馬の交通程度であった当時、総延長280kmの四国新道は明治27年に完成した。 三豊市財田の国道32号沿いに大久保謙之丞翁碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川94</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■讃岐新道(国道32号)</p> <p>四国新道は大久保謙之丞により計画実施されたもので、当初の計画では丸亀、多度津より金蔵寺、琴平を経て、さらに池田、大杉を経て高知に達する路線であったが、その後各県有志と連絡の結果、高知より佐川を経て須崎に至る路線と、佐川より松山、三津浜に達する路線を追加した。四国新道の延長は280,361mで、幅員は最小3.5間、最大7間であり、自動車の姿が見えなかった時代としては画期的なものであった。四国新道のうち香川県に關係する讃岐新道38,382mは明治19年4月に着工し、明治23年3月に竣工した。</p> <p>三豊市財田の国道32号沿いに大久保謙之丞翁碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川97</a>
香川7	<p>大久保謙之丞像(たからだの里)</p> 	香川県	三豊市	道路	<p>■讃岐新道(国道32号)</p> <p>讃岐新道(丸亀、多度津～猪ノ鼻峠38.4km)は、大久保謙之丞が構想し実現に尽力した四国新道の一部で、特に秀でている点は広大な幅員(3.5～4間)で、自動車のなかった時代を考えると、その先見性は特筆に値するものである。明治19年に着工した讃岐街道は明治21年には多度津・猪ノ鼻の讃岐分がほとんど完成して馬車が通行できるようになった。讃岐街道は明治23年3月に阿波街道と通じ、大正8年の道路法制定により国道23号線に編入され、昭和27年の道路法改正により国道32号となった。</p> <p>三豊市財田のたからだの里に大久保謙之丞像が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川29</a>
					<p>■四国新道(国道32号)</p> <p>四国新道の路線ルートは、丸亀、多度津、善通寺、琴平から阿波池田を経て高知、須崎に達し、さらに佐川、松山、三津浜と連なる四国全県にまたがる幹線道路である。大久保謙之丞は四国新道に深い関心を持ち、計画を立て、世論に訴え、賛同者を集めると、自費を注ぎ込んで測量等の準備作業を進め、明治19年2月に工事を開始した。未だ鉄道も自動車もなく、ほとんど人馬の交通程度であった当時、総延長280kmの四国新道は明治27年に完成した。</p> <p>三豊市財田のたからだの里に大久保謙之丞像が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川94</a>
					<p>■讃岐新道(国道32号)</p> <p>四国新道は大久保謙之丞により計画実施されたもので、当初の計画では丸亀、多度津より金蔵寺、琴平を経て、さらに池田、大杉を経て高知に達する路線であったが、その後各県有志と連絡の結果、高知より佐川を経て須崎に至る路線と、佐川より松山、三津浜に達する路線を追加した。四国新道の延長は280,361mで、幅員は最小3.5間、最大7間であり、自動車の姿が見えなかった時代としては画期的なものであった。四国新道のうち香川県に關係する讃岐新道38,382mは明治19年4月に着工し、明治23年3月に竣工した。</p> <p>三豊市財田のたからだの里に大久保謙之丞像が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川97</a>

## 香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川8	大久保謙之丞像(琴平公園) 	香川県	琴平町	道路	<b>■讃岐新道(国道32号)</b> 讃岐新道(丸亀、多度津～猪ノ鼻峠38.4km)は、大久保謙之丞が構想し実現に尽力した四国新道の一部で、特に秀でている点は広大な幅員(3.5～4間)で、自動車のなかった時代を考えると、その先見性は特筆に値するものである。明治19年に着工した讃岐街道は明治21年には多度津・猪ノ鼻の讃岐分がほとんど完成して馬車が通行できるようになった。讃岐街道は明治23年3月に阿波街道と通じ、大正8年の道路法制定により国道23号線に編入され、昭和27年の道路法改正により国道32号となった。 琴平町の琴平公園に大久保謙之丞像が建立されている。	<a href="#">道路香川29</a>
					<b>■四国新道(国道32号)</b> 四国新道の路線ルートは、丸亀、多度津、善通寺、琴平から阿波池田を経て高知、須崎に達し、さらに佐川、松山、三津浜と連なる四国全県にまたがる幹線道路である。大久保謙之丞は四国新道に深い関心を持ち、計画を立て、世論に訴え、賛同者を集めると、自費を注ぎ込んで測量等の準備作業を進め、明治19年2月に工事を開始した。未だ鉄道も自動車もなく、ほとんど人馬の交通程度であった当時、総延長280kmの四国新道は明治27年に完成した。 琴平町の琴平公園に大久保謙之丞像が建立されている。	<a href="#">道路香川94</a>
					<b>■讃岐新道(国道32号)</b> 四国新道は大久保謙之丞により計画実施されたもので、当初の計画では丸亀、多度津より金蔵寺、琴平を経て、さらに池田、大杉を経て高知に達する路線であったが、その後各県有志と連絡の結果、高知より佐川を経て須崎に至る路線と、佐川より松山、三津浜に達する路線を追加した。四国新道の延長は280,361mで、幅員は最小3.5間、最大7間であり、自動車の姿が見えなかった時代としては画期的なものであった。四国新道のうち香川県に關係する讃岐新道38,382mは明治19年4月に着工し、明治23年3月に竣工した。 琴平町の琴平公園に大久保謙之丞像が建立されている。	<a href="#">道路香川97</a>
香川9	日本の道100選の顕彰碑 	香川県	高松市	道路	<b>■クリエイティブ高松・中央通りプロムナード(国道11号、国道30号)</b> 高松駅前から栗林公園までの2.4kmの区間を快適で美しい中央通りとするため、高松市及び沿線地域の協力を得て昭和60年度に「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード計画」を策定し、平成4年度末の完成を目指して事業を実施している。直轄事業としては、電線類の地中化のためのキャブ工事、それに伴う歩道のカラー舗装、装飾照明、植栽帯・標識類の整備、番町地下道の新設を実施している。なお、キャブとは電力、通信などの各種ケーブルを集約して道路と一体的に収納する蓋がけ式のU字構造物である。 中央通りが日本の道100選に選定された時の顕彰碑が番町交差点に建立されている。	<a href="#">道路香川35</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■クリエイティブ高松・中央通りプロムナード(国道11号、国道30号)</p> <p>クリエイティブ高松・中央通りプロムナードは、高松駅と栗林公園を結ぶ南北2.4km、幅員36mの中央通り(国道11号、30号)で、安全で快適な美しい都市空間の創出を目的として電力、電話等のケーブルの地下化、カラーブロックの歩道、装飾照明及び交差点での地下広場の設置など総合的な整備を行ったものである。番町交差点には約530㎡の地下広場を有する横断地下道が設置されている。地下広場の出入口部には斜路付き階段とともに、エレベーターが中国・四国地方で初めて設置されている。</p> <p>中央通りが日本の道100選に選定された時の顕彰碑が番町交差点に建立されている。</p>	<a href="#">道路香川105</a>
香川10	<p>クリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業記念碑</p> 	香川県	高松市	道路	<p>■クリエイティブ高松・中央通りプロムナード(国道11号、国道30号)</p> <p>高松駅前から栗林公園までの2.4kmの区間を快適で美しい中央通りとするため、高松市及び沿線地域の協力を得て昭和60年度に「クリエイティブ高松・中央通りプロムナード計画」を策定し、平成4年度末の完成を目指して事業を実施している。直轄事業としては、電線類の地中化のためのキャブ工事、それに伴う歩道のカラー舗装、装飾照明、植栽帯・標識類の整備、番町地下道の新設を実施している。なお、キャブとは電力、通信などの各種ケーブルを集約して道路と一体的に収納する蓋がけ式のU字構造物である。</p> <p>番町交差点にクリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業記念碑が建立されている。</p> <p>■クリエイティブ高松・中央通りプロムナード(国道11号、国道30号)</p> <p>クリエイティブ高松・中央通りプロムナードは、高松駅と栗林公園を結ぶ南北2.4km、幅員36mの中央通り(国道11号、30号)で、安全で快適な美しい都市空間の創出を目的として電力、電話等のケーブルの地下化、カラーブロックの歩道、装飾照明及び交差点での地下広場の設置など総合的な整備を行ったものである。番町交差点には約530㎡の地下広場を有する横断地下道が設置されている。地下広場の出入口部には斜路付き階段とともに、エレベーターが中国・四国地方で初めて設置されている。</p> <p>番町交差点にクリエイティブ高松・中央通りプロムナード事業記念碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路香川35</a></p> <p><a href="#">道路香川105</a></p>
香川11	<p>瀬戸大橋竣工記念碑(常盤公園)</p> 	香川県	坂出市	道路	<p>■瀬戸大橋(瀬戸中央自動車道)</p> <p>瀬戸大橋は本州四国連絡橋・児島～坂出ルート of 道路と鉄道の併用橋である。瀬戸大橋は昭和48年11月に着工予定であったが、オイルショックにより延期になり、昭和53年10月に着工した。その後、水中発破、設置ケーソン工法、緩衝桁軌道伸縮装置など数々の新工法を開発することなどにより難工事を克服し、着工以来9年半の歳月と1兆1,300億円(計画ベース)の費用をかけて、昭和63年4月に開通した。岡山・香川両県では瀬戸大橋博覧会が開催され、観光客も大幅に増加した。</p> <p>坂出市の常盤公園に瀬戸大橋竣工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川92</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川12	大久保謙之丞像(瀬戸大橋記念公園) 	香川県	坂出市	道路	<p>■瀬戸大橋(瀬戸中央自動車道)</p> <p>瀬戸大橋は本州四国連絡橋・児島～坂出ルートの道路と鉄道の併用橋である。瀬戸大橋は昭和48年11月に着工予定であったが、オイルショックにより延期になり、昭和53年10月に着工した。その後、水中発破、設置ケーソン工法、緩衝桁軌道伸縮装置など数々の新工法を開発することなどにより難工事を克服し、着工以来9年半の歳月と1兆1,300億円(計画ベース)の費用をかけて、昭和63年4月に開通した。岡山・香川両県では瀬戸大橋博覧会が開催され、観光客も大幅に増加した。</p> <p>瀬戸大橋記念公園に大久保謙之丞像が建立されている。</p>	<a href="#">道路香川92</a>
香川13	四国鉄道発祥の地碑(多度津駅) 	香川県	多度津町	鉄道	<p>■讃岐鉄道丸亀～琴平間(JR予讃線、JR土讃線)</p> <p>多度津の廻船問屋の景山甚右衛門は上京した時に新橋～横浜間を走る汽車に注目し、金刀比羅宮参拝の鉄道の開設を決意した。景山甚右衛門らは明治20年5月に私設鉄道願を提出し、明治21年2月に本免許が下付された。同年4月に讃岐鉄道株式会社により起工式が行われ、多度津を起点として琴平、丸亀の2方面に向けて工事が進められた。人力車夫や馬方、琴平の旅館組合・土産物業者、沿線の農民などの反対もあったが、着工以来約1年で完工し、明治22年5月に丸亀～多度津～琴平間15.5kmを開業した。</p> <p>多度津駅前に四国鉄道発祥の地碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道香川1</a>
香川14	高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑 	香川県	高松市	港湾・空港	<p>■高松港玉藻地区直轄港湾再開発工事</p> <p>サンポート高松は、高松港とその周辺約42haの再開発プロジェクトであり、昭和63年の宇高連絡船の廃止を契機に計画された。運輸省第三港湾建設局高松港湾空港工事事務所では、昭和63年度～平成12年度にサンポート高松の外郭ラインを構成する西防波堤540m、護岸(防波)312m、岸壁(-10m)225m、大型旅客船岸壁(-7.5m)155m、旅客船・フェリー岸壁(-6m)125m、物揚場(-4m)105m等を直轄港湾施設として整備した。サンポート高松は平成13年度から一般開放され、市民から高い評価を得られている。</p> <p>高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑が建立されている。</p> <p>■高松港玉藻地区旅客船対応ターミナル整備事業</p> <p>高松港玉藻地区旅客船対応ターミナル整備事業は、国土交通省が事業主体となり、昭和62年度～平成13年度にサンポート高松内の高松駅や高松シンボルタワー等の人流拠点に近い場所で実施された。構成施設は岸壁(-10m)、岸壁(-7.5m)、岸壁(-6.0m)、物揚場(-4m)、物揚場(-3m)、防波堤(西)、護岸(防波)、航路泊地(-10m)、第1・第2浮棧橋、臨港道路、緑地等である。ターミナルの整備後、海陸交通の拠点として、地域住民の憩い・交流空間の場として多くの人で賑わい、整備効果が十分に発現されている。</p> <p>高松港玉藻地区港湾整備事業着工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港香川19</a>  <a href="#">港湾・空港香川20</a>

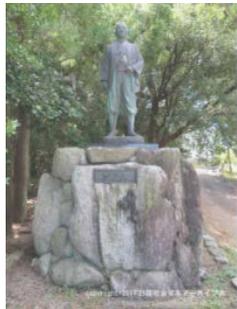
香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川15	旧高松空港跡地の碑 	香川県	高松市	港湾・空港	<p>■旧高松空港</p> <p>旧高松空港は、昭和19年1月から旧陸軍が農地や宅地など約270haを買収し、軍用飛行場として建設に着手、同年8月に長さ800m、幅15mの滑走路を完成させた。戦後、連合軍に接收され、大部分は農地として開放し、規模を縮小して管理していたが、昭和27年6月に返還された。昭和30年5月に民間飛行場として供用を開始した。昭和31年4月に空港整備法が施行され、旧高松空港は第二種空港に指定され、昭和33年6月に正式な供用開始となった。平成元年12月、新高松空港開港の前日に廃港となった。</p> <p>旧高松空港跡地の碑が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港香川29</a>
香川16	新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑 	香川県	宇多津町	市街地開発	<p>■新宇多津都市の建設</p> <p>新宇多津都市は、瀬戸大橋の効果を受けとめる中讃都市圏の中核都市づくりとして、昭和53年6月から旧塩田跡地で整備が進められた。この事業は、瀬戸大橋の関連プロジェクトである鉄道電化・高架化、臨海産業道路(さぬき浜街道)の整備、香川県瀬戸大橋流通センターなどの一環としてスタートしたもので、香川県、宇多津町、地域振興整備公団が一体となって事業にあたった。平成2年度に総面積186haの大規模造成工事が完了し、平成3年7月には市街地の核となる企業誘致・施設誘致も完了、平成3年11月に事業竣工式を行った。</p> <p>宇多津駅北口に新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑(裏面は土地区画整理事業完成碑)が建立されている。</p> <p>■宇多津塩田土地区画整理事業</p> <p>昭和47年の製塩業の廃止により宇多津町には塩田跡地が残された。宇多津町では、四国の玄関口にふさわしい都市開発と健全な市街地の造成を目的として、地権者約300人、186.3haの塩田跡地を、地域振興整備公団と香川県の技術的・財政的援助を得ながら土地区画整理事業の手法で開発した。宇多津塩田土地区画整理事業は、昭和52年12月の事業着工から14年の歳月をかけて都市基盤施設の整備と住宅地の形成を行い、平成3年11月に竣工式を行った。土地区画整理事業の最終段階である換地処分は平成4年1月に行った。</p> <p>宇多津駅北口に新宇多津都市の原形宇多津塩田の碑(裏面は土地区画整理事業完成碑)が建立されている。</p>	<a href="#">市街地開発香川7</a>  <a href="#">市街地開発香川8</a>
香川17	宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑 	香川県	宇多津町	市街地開発	<p>■新宇多津都市の建設</p> <p>新宇多津都市は、瀬戸大橋の効果を受けとめる中讃都市圏の中核都市づくりとして、昭和53年6月から旧塩田跡地で整備が進められた。この事業は、瀬戸大橋の関連プロジェクトである鉄道電化・高架化、臨海産業道路(さぬき浜街道)の整備、香川県瀬戸大橋流通センターなどの一環としてスタートしたもので、香川県、宇多津町、地域振興整備公団が一体となって事業にあたった。平成2年度に総面積186haの大規模造成工事が完了し、平成3年7月には市街地の核となる企業誘致・施設誘致も完了、平成3年11月に事業竣工式を行った。</p> <p>宇多津中央公園に宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">市街地開発香川7</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■宇多津塩田土地区画整理事業 昭和47年の製塩業の廃止により宇多津町には塩田跡地が残された。宇多津町では、四国の玄関口にふさわしい都市開発と健全な市街地の造成を目的として、地権者約300人、186.3haの塩田跡地を、地域振興整備公団と香川県の技術的・財政的援助を得ながら土地区画整理事業の手法で開発した。宇多津塩田土地区画整理事業は、昭和52年12月の事業着工から14年の歳月をかけて都市基盤施設の整備と住宅地の形成を行い、平成3年11月に竣工式を行った。土地区画整理事業の最終段階である換地処分は平成4年1月に行った。 宇多津中央公園に宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑が建立されている。</p> <p>■新宇多津都市の中央公園 新宇多津都市内の公園と緑地の総面積は約8.4haで、計画人口8,700人に換算して約10㎡／人という水準である。8つの公園のうち、瀬戸大橋を望める臨海公園を観光的な機能を持つ地区公園として形成したのに対して、中央公園は地区住民の都市公園の役割を持つ近隣公園として形成することになった。中央公園には多目的広場、野外ステージ、子供広場、自由広場、グリーン広場、さつき小山、駐車場が整備された。公園工事は昭和61年11月に始まり、中央公園は平成3年3月に完成した。 宇多津中央公園に宇多津塩田土地区画整理事業竣工記念碑が建立されている。</p>	<p>市街地開発香川8</p> <p>市街地開発香川12</p>
香川18	真野池記の碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■明治3年の満濃池の改修 満濃池は安政元年6月の地震で地盤が緩み、7月に決壊した。長谷川佐太郎が慶応4年に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の3藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、3藩の意見は一致しなかった。佐太郎は私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事に着手することができた。工事は高松藩執政・松崎洪右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、石穴の掘削には軒原庄蔵を起用して、明治3年6月に竣工した。 満濃池のほとりに真野池記の碑が建立されている。</p>	ため池香川1
香川19	松坡長谷川翁功德之碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■明治3年の満濃池の改修 満濃池は安政元年6月の地震で地盤が緩み、7月に決壊した。長谷川佐太郎が慶応4年に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の3藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、3藩の意見は一致しなかった。佐太郎は私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事に着手することができた。工事は高松藩執政・松崎洪右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、石穴の掘削には軒原庄蔵を起用して、明治3年6月に竣工した。 満濃池のほとりに松坡長谷川翁功德之碑が建立されている。</p>	ため池香川1

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川20	松崎渋右衛門辞世の碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■明治3年の満濃池の改修</p> <p>満濃池は安政元年6月の地震で地盤が緩み、7月に決壊した。長谷川佐太郎が慶応4年に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の3藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、3藩の意見は一致しなかった。佐太郎は私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事に着手することができた。工事は高松藩執政・松崎渋右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、石穴の掘削には軒原庄蔵を起用して、明治3年6月に竣工した。</p> <p>満濃池のほとりに松崎渋右衛門辞世の碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川1</a>
香川21	軒原庄蔵像 	香川県	さぬき市	ため池	<p>■明治3年の満濃池の改修</p> <p>満濃池は安政元年6月の地震で地盤が緩み、7月に決壊した。長谷川佐太郎が慶応4年に政府に満濃池再築の嘆願書を提出したところ、政府より倉敷県が許しを受けて高松藩、丸亀藩、多度津藩の3藩に対して満濃池改築を働きかけることになったが、3藩の意見は一致しなかった。佐太郎は私財を投じて各藩の間を斡旋、奔走した結果、明治2年9月に石穴掘削の工事に着手することができた。工事は高松藩執政・松崎渋右衛門の意見により堤防西隅の岩盤に穴をうがって底ゆるにすることとし、石穴の掘削には軒原庄蔵を起用して、明治3年6月に竣工した。</p> <p>みろく自然公園に軒原庄蔵像が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川1</a>
香川22	満濃池配水塔碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■満濃池の配水塔建設</p> <p>大正2年に満濃池水利組合の管理者であった仲多度郡長の乾貢は、旧態依然の取水施設を視察し、前任地愛知県の入鹿池の取水塔方式を提案した。組合内部では旧来の水利慣行が損なわれるとの懸念があったが、従来の水利慣行を存続する条件で配水塔の建設が議決された。工事は大正3年9月に起工し、同年11月に竣工した。配水塔は全高19.7m、円筒形の基底部の径7.3m、上部径4.6mであった。当時はコンクリートやモルタル煉瓦積みが珍しく、取水塔に鉄管を配置し、バルブ操作で配水するなど画期的な設備であった。</p> <p>配水塔近くに満濃池配水塔碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川3</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川23	修拓記念碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■満濃池の第二次嵩上げ</p> <p>大正13年の干ばつを契機に、満濃池の再度嵩上げの要望が高まった。満濃池水利組合は大正14年に県に調査を依頼し、県営満濃池用排水改良事業として工事を行うことになった。工事内容は1)堤防を1.52m嵩上げし、貯水量を150万トン増加して総貯水量を780万トンとする、2)導水トンネル(400m)と取付水路(280m)を建設し、財田川から満濃池に導水する、3)用水損失を防止するため丸亀幹線水路約5kmを改修する、というものであった。第二次嵩上げ事業は昭和2年10月に着工し、昭和5年12月に完成した。</p> <p>満濃池のほとりに修拓記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川4</a>
香川24	昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■満濃池の第二次嵩上げ</p> <p>大正13年の干ばつを契機に、満濃池の再度嵩上げの要望が高まった。満濃池水利組合は大正14年に県に調査を依頼し、県営満濃池用排水改良事業として工事を行うことになった。工事内容は1)堤防を1.52m嵩上げし、貯水量を150万トン増加して総貯水量を780万トンとする、2)導水トンネル(400m)と取付水路(280m)を建設し、財田川から満濃池に導水する、3)用水損失を防止するため丸亀幹線水路約5kmを改修する、というものであった。第二次嵩上げ事業は昭和2年10月に着工し、昭和5年12月に完成した。</p> <p>野口ダムのほとりに昭和三年拾月貳拾壹日満濃池分水協定要項碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川4</a>
香川25	県営満濃池改良竣工記念碑 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■満濃池の第三次嵩上げ</p> <p>昭和9年、14年の干ばつを機に、昭和15年度に塩野池貯水池の築造と満濃池の嵩上げを内容とする県営土器川沿岸用水改良事業が着手されたが、昭和19年に戦争の激化により中断された。戦後、塩野池貯水池計画は天川導水計画に変更され、昭和27年に県営満濃池用水改良事業と県営土器川右岸用水改良事業の2つの事業が実施されることになり、昭和32年度に満濃池の嵩上げ工事が完了し、天川導水路の取水口である天川頭首工も昭和33年度に竣工した。満濃池の6mの嵩上げで、貯水量は780万トンから1,540万トンに倍増された。</p> <p>満濃池のほとりに県営満濃池改良竣工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川5</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川26	<p>県営金倉川沿岸用水改良事業完成記念碑</p> 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■県営金倉川沿岸用水改良事業</p> <p>満濃池の水掛かり全域に無駄なく配水するための用水路の本格的な改修工事が、県営金倉川沿岸用水改良事業として、昭和28年4月に着工し、昭和44年3月に竣工した。この工事は、丸亀幹線用水路から買田幹線用水路に至る全用水路を近代化するとともに、天川頭首工の改修も行う大工事であった。この工事の完成により、主要幹線水路が新設、改修されて、公平な用水の配分により農業生産が拡大するとともに、非能率的な用水施設の廃止により農業経営の合理化を図ることができた。</p> <p>満濃池のほとりに県営金倉川沿岸用水改良事業完成記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川7</a>
香川27	<p>満濃池世界かんがい施設遺産碑</p> 	香川県	まんのう町	ため池	<p>■県営金倉川沿岸用水改良事業</p> <p>満濃池の水掛かり全域に無駄なく配水するための用水路の本格的な改修工事が、県営金倉川沿岸用水改良事業として、昭和28年4月に着工し、昭和44年3月に竣工した。この工事は、丸亀幹線用水路から買田幹線用水路に至る全用水路を近代化するとともに、天川頭首工の改修も行う大工事であった。この工事の完成により、主要幹線水路が新設、改修されて、公平な用水の配分により農業生産が拡大するとともに、非能率的な用水施設の廃止により農業経営の合理化を図ることができた。</p> <p>満濃池のほとりに満濃池世界かんがい施設遺産碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川7</a>
香川28	<p>豊稔池碑</p> 	香川県	観音寺市	ため池	<p>■豊稔池の築造</p> <p>大正7年に大関耕地整理組合が設立され、田野々新池築造計画が発議され、農民の新池築造への期待が高まった。大正13年に加地茂治郎組合長は三土忠造農林政務官の助言を受けて、田野々新池工事を県営用排水事業として実施するよう請願し、県議会で決定した。工事は救農土木事業として地元から人夫を調達して組合が行い、築堤材料の石は現地で採掘した。セメントや砂は海岸から牛車で運び、4年の歳月と15万人の労力によって築き上げられ、豊稔池は昭和5年3月に完成した。命名は三土忠造大蔵大臣による。</p> <p>豊稔池の堰堤近くに豊稔池碑が建立されている。</p> <p>■豊稔池の改修工事</p> <p>豊稔池は築造後半世紀余りを経過した昭和50年代後半に堤体にクラックが入り、漏水が目立つようになった。このため、本格的な修復工事が必要になり、農林省に申請し、昭和61年5月に採択されたが、工法等を検討する中で防災ため池工事での採択に変更することになり、昭和63年4月に防災ため池工事として採択され、平成元年11月に起工式が挙行された。主要工事は堤体工、洪水吐工、取水工、減勢工等で、平成5年度に竣工した。さらに平成5～6年度に堰堤周辺が利活用保全施設として公園化され、多くの人に親しまれている。</p> <p>豊稔池の堰堤近くに豊稔池碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">ため池香川8</a></p> <p><a href="#">ため池香川9</a></p>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川29	豊稔池改修事業竣工記念碑 	香川県	観音寺市	ため池	<p>■豊稔池の改修工事</p> <p>豊稔池は築造後半世紀余りを経過した昭和50年代後半に堤体にクラックが入り、漏水が目立つようになった。このため、本格的な修復工事が必要になり、農林省に申請し、昭和61年5月に採択されたが、工法等を検討する中で防災ため池工事での採択に変更することになり、昭和63年4月に防災ため池工事として採択され、平成元年11月に起工式が挙行された。主要工事は堤体工、洪水吐工、取水工、減勢工等で、平成5年度に竣工した。さらに平成5～6年度に堰堤周辺が利活用保全施設として公園化され、多くの人に親しまれている。</p> <p>豊稔池の堰堤下に豊稔池改修事業竣工記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池香川9</a>
香川30	石引池の香川用水通水碑 	香川県	東かがわ市	用水	<p>■香川用水引田支線工事</p> <p>香川用水事業は、早明浦ダムで開発した水を池田ダムで取水し、阿讃山脈を貫く導水トンネルで財田町へ送り、そこから東西幹線水路で東部は白鳥町の宮奥池、西部は豊浜町の姥ヶ懐池まで導水し、農業用水、都市用水に利用するものである。引田支線水路の工事は昭和52年6月に着工、昭和55年4月に竣工した。その後、平成4年度に馬宿川を横断し、保田池、宗極池までの支線追加が行われた。引田町に香川用水が配水され、千足ダム完成と合わせて、引田町の水不足は解消した。</p> <p>石引池に香川用水通水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川4</a>
香川31	佐文の香川用水記念碑 	香川県	まんのう町	用水	<p>■香川用水と仲南町</p> <p>香川用水事業は、吉野川総合開発計画の一環として吉野川の水を香川県に導流して、県下の水不足を解決しようとするものである。昭和43年10月に起工、昭和54年6月に竣工した。仲南町で香川用水事業に関係するのは地形上佐文地区のみであり、佐文地区の工事は昭和47年4月に着工し、昭和51年3月に竣工した。佐文地区の受益面積は90ha、受益者は130戸である。香川用水の完成により従来の不合理な水利慣行に終止符を打ち、水不足が解消されて営農の向上が期待されている。</p> <p>まんのう町佐文に香川用水記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川10</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
香川32	姥ヶ懐池の碑 	香川県	観音寺市	用水	<p>■香川用水と豊浜町</p> <p>香川用水事業は早明浦ダムによって開発される水量のうち香川県に配分される年間2億4,700トン（農業用水、上水道用水、工業用水、上水道用水として供給するものである。豊浜町内には財田町から西部幹線約13kmを通ってくる。上水道の水は、雲岡受水槽と一の宮浄水場に貯められた水が町内各地で使われている。また、農業用水は姥ヶ懐池に集められた水を箕浦の箕池まで各溜池に配水されている。香川用水の恵みで、町内の田約270haと畑約190haが水の心配をしなくて済むようになった。</p> <p>姥ヶ懐池のもとに姥ヶ懐池の碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川12</a>
香川33	水穂香川用水善海通水記念碑 	香川県	高松市	用水	<p>■香川用水と香川町</p> <p>香川用水は、早明浦ダムで開発される水を池田ダムから財田町の東西分水工へ導水し、ここで東部幹線水路と西部幹線水路に分けて県下に農業用水、上水道用水、工業用水として送水するものである。水資源開発公団と農林省が実施し、昭和43年に着工、昭和55年に完了した。香川町には東部幹線が大野地区から浅野地区に約3.4kmにわたって走り、善海、東部幹線、舟岡池、平池の各分水工から農業用水の補給を受けるなどして農地513.6haが受益している。また、水道用水も県営東部浄水場から香川町上水道が受水している。</p> <p>香川町大野に水穂香川用水善海通水記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水香川8</a>
香川34	讃岐財田駅創業50周年記念碑 	香川県	三豊市	鉄道	<p>■土讃線琴平～土佐山田間（JR土讃線）</p> <p>土讃線琴平～土佐山田間は、大正8年3月に第一期線に追加され、大正12年4月に高知県下東豊永で本線を2つに分け、琴平～東豊永間65kmを土讃北線、東豊永～土佐山田間35kmを土讃南線とし、土讃北線は大正9年3月に琴平で着工した。土讃北線では琴平～讃岐財田間が大正12年5月に開通し、最大の難関であった猪ノ鼻トンネル（延長3,845m）を貫く讃岐財田～阿波池田間の工事は大正9年1月に測量を開始、大正11年10月に着工、昭和4年4月に開通した。工事中の被害は死者10人、負傷者2,000人に及んだ。</p> <p>讃岐財田駅に創業50周年記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道香川15</a>
					<p>■土讃線琴平～財田間（JR土讃線）</p> <p>香川県と徳島県を結ぶ鉄道路線として①高松から脇町、②琴平から阿波池田、③観音寺から阿波池田の3路線が候補としてあげられ誘致が行われたが、②の琴平～阿波池田と決まった。参詣地である琴平を控えること、善通寺に設置された陸軍第11師団の軍事的な配慮がその理由とされる。大正9年3月に琴平～塩入間、ついで塩入～財田間に着工、大正12年5月に琴平～財田間が開通した。土讃線敷設にあたり、地元住民が大量に雇用されたこと、鉄道用地に地元から田畑の提供があったことが記録されている。</p> <p>讃岐財田駅に創業50周年記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道香川16</a>

香川県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■土讃線と財田町(JR土讃線)</p> <p>土讃線の琴平～財田間は大正12年5月に開通し、讃岐財田駅が開業した。昭和4年4月には猪ノ鼻トンネルを貫いて阿波池田まで延びた。土讃線の路線については、猪ノ鼻経由か曼荼羅線経由にするかの論議があり、猪ノ鼻・塩入線路の比較調査も行われ、総合的に猪ノ鼻線の優位性が明らかになり、現在の路線が決定された。大正12年5月の開通式は、琴平町、榎井村、十郷村、七箇村、財田村が合同で開催し、財田駅及び付近で挙行された。渡辺礒吉は列車の増発に尽力し、昭和36年10月の黒川駅の設置にも奔走した。</p> <p>讃岐財田駅に創業50周年記念碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">鉄道香川68</a></p>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛1	柳瀬ダムの慰霊碑 	愛媛県	四国中央市	河川	<b>■柳瀬ダム(吉野川水系)</b> 柳瀬ダムは、吉野川の洪水調節、発電及びかんがい用水の供給を目的に建設された多目的ダムである。昭和24年4月に愛媛県の委託を受けて建設省が着手し、昭和29年3月に完成した。柳瀬ダムの建設には、ダムコンクリートにAE剤(混和剤)を導入したり、多孔式の取水設備を採用するなど、新しい技術が取り入れられた。柳瀬ダムは銅山川の他のダム(新宮ダム、富郷ダム)とともに吉野川の洪水調節機能を担うとともに、宇摩地域への農業・工業・生活用水の供給により地域の発展に貢献してきた。 柳瀬ダムに慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛1</a>
					<b>■柳瀬ダム(吉野川水系)</b> 柳瀬ダムは、吉野川総合開発事業に先駆けて、吉野川水系銅山川に建設した有効貯水容量2,960万 <sup>3</sup> m。堤高55.5mの重力式コンクリートダムで、四国で初めての多目的ダム(洪水調節、かんがい用水、水道用水、工業用水、発電)である。洪水調節は、ダム地点で1,200 <sup>3</sup> m/sの調節を行う。かんがい用水は宇摩地域(土居町、伊予三島市、川之江市)の田畑・果樹園等に対して用水を供給する。水道用水及び工業用水は伊予三島・川之江地区に供給する。発電は銅山川第一発電所、銅山川第二発電所で行う。 柳瀬ダムに慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛2</a>
					<b>■柳瀬ダム(吉野川水系)</b> 昭和24年に吉野川水系治水計画の中で愛媛県が調査を進めてきた銅山川柳瀬地点にダム建設が決定された。柳瀬ダムは治水、発電、上水道用水・工業用水の供給を併せた多目的ダムであり、昭和24年4月に愛媛県から委託を受けた建設省が工事に当たり、昭和28年度に完成した。ダムは堤高55.5m、有効貯水量2,960万 <sup>3</sup> mで、これに関連して発電所が昭和25年4月に着工され、銅山川第一発電所は昭和28年10月に、銅山川第二発電所は昭和29年3月に完成し、完成後の運営は県電気局の所管となった。 柳瀬ダムに慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛95</a>
愛媛2	新宮ダムの碑 	愛媛県	四国中央市	河川	<b>■新宮ダム(吉野川水系)</b> 新宮ダムは、洪水調節、灌漑、工業用水の供給、発電を目的とした多目的ダムである。吉野川水系工事実施基本計画の一環として、このダムでは洪水調節容量500万 <sup>3</sup> mを利用して400 <sup>3</sup> m/sの調節を行う。また、利水容量670万 <sup>3</sup> mを利用し、早明浦ダム及び柳瀬ダムと相まって川之江地区の農地約650haに対する灌漑を行い、伊予三島、川之江地区への工業用水を供給し、あわせて最大出力11,700kwの発電を行う。新宮ダムは昭和45年度に水資源開発公団により事業着手され、昭和51年3月に完成した。 新宮ダムの碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛3</a>
					<b>■新宮ダム(吉野川水系)</b> 新宮ダムは、吉野川水系における治水事業の一環としての洪水調節と吉野川総合開発計画の関連事業である愛媛分水及び発電を行うため、吉野川水系銅山川に建設した有効貯水容量1,170万 <sup>3</sup> m、堤高42.0mの重力式コンクリートである。工期は昭和44年4月～昭和51年3月である。 新宮ダムの碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛4</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■新宮ダムと新宮村の対応</p> <p>新宮ダム建設事業は、洪水調節と発電を目的にするとともに、新宮地点から愛媛県に分水を行い、愛媛県の工業用水及び農業用水を確保するものである。事業主体は水資源開発公団で、昭和45年3月に新宮ダム調査所が伊予三島市に開設されて建設が始まった。新宮ダムによる新宮村の水没戸数は65世帯であったが、水没補償の交渉は比較的短期間で妥結に至った。新宮ダム工事は昭和50年10月に竣工、その後地すべり対策工事が行われ、昭和52年3月に新宮ダム建設事業が完了した。</p> <p>新宮ダムの碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛106</a>
愛媛3	<p>三島公園の銅山川功労者頌徳碑</p> 	愛媛県	四国中央市	河川	<p>■銅山川分水(吉野川水系)</p> <p>銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。</p> <p>三島公園に銅山川功労者頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛26</a>
					<p>■銅山川分水(吉野川水系)</p> <p>銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。</p> <p>三島公園に銅山川功労者頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛27</a>
					<p>■銅山川分水(吉野川水系)</p> <p>銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末から考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、工事が進められたが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて両県の分水協定が成立し、昭和24年4月に柳瀬ダムが着工され、昭和28年10月に完成し、宇摩平野住民悲願の銅山川の水が山を越えて流れた。昭和50年には新宮ダムも完成し、宇摩地域の産業発展と生活安定に寄与している。</p> <p>三島公園に銅山川功労者頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛102</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛4	三島公園の紀伊為一郎 頌徳碑 	愛媛県	四国中央市	河川	<b>■銅山川分水(吉野川水系)</b> 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 三島公園に紀伊為一郎頌徳碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛26</a>
					<b>■銅山川分水(吉野川水系)</b> 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 三島公園に紀伊為一郎頌徳碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛27</a>
					<b>■銅山川分水(吉野川水系)</b> 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末から考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、工事が進められたが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて両県の分水協定が成立し、昭和24年4月に柳瀬ダムが着工され、昭和28年10月に完成し、宇摩平野住民悲願の銅山川の水が山を越えて流れた。昭和50年には新宮ダムも完成し、宇摩地域の産業発展と生活安定に寄与している。 三島公園に紀伊為一郎頌徳碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛102</a>
愛媛5	戸川疏水公園の頌徳碑 	愛媛県	四国中央市	河川	<b>■銅山川分水(吉野川水系)</b> 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 戸川疏水公園に頌徳碑が建立されている。	<a href="#">河川愛媛26</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■銅山川分水(吉野川水系) 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 戸川疎水公園に頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛27</a>
					<p>■銅山川分水(吉野川水系) 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末から考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、工事が進められたが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて両県の分水協定が成立し、昭和24年4月に柳瀬ダムが着工され、昭和28年10月に完成し、宇摩平野住民悲願の銅山川の水が山を越えて流れた。昭和50年には新宮ダムも完成し、宇摩地域の産業発展と生活安定に寄与している。 戸川疎水公園に頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛102</a>
愛媛6	戸川疎水公園の福田武太郎翁之像 	愛媛県	四国中央市	河川	<p>■銅山川分水(吉野川水系) 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 戸川疎水公園に福田武太郎翁之像が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛26</a>
					<p>■銅山川分水(吉野川水系) 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末に考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、長年の懸案であった分水問題が解決したが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて愛媛県と徳島県の間で分水協定が成立し、これに洪水調節の目的も加えて、柳瀬ダムを多目的ダムとすることで、昭和24年4月に県から委託された建設省によってダム工事が始められ、昭和28年10月に完成した。 戸川疎水公園に福田武太郎翁之像が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛27</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■銅山川分水(吉野川水系) 銅山川の水を宇摩平野に導水する計画は幕末から考えられ、それ以降昭和初期にかけて事業申請がなされたが、実現には至らなかった。昭和11年に内務省の斡旋のもと、愛媛県と徳島県との協議が成立し、工事が進められたが、戦争により工事は中止となった。昭和22年に改めて両県の分水協定が成立し、昭和24年4月に柳瀬ダムが着工され、昭和28年10月に完成し、宇摩平野住民悲願の銅山川の水が山を越えて流れた。昭和50年には新宮ダムも完成し、宇摩地域の産業発展と生活安定に寄与している。 戸川疎水公園に福田武太郎翁之像が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛102</a>
愛媛7	<p>肱川治水碑</p> 	愛媛県	大洲市	河川	<p>■肱川の激甚災害対策特別緊急事業(肱川水系) 肱川では、平成7年7月洪水により水系全体で床上浸水768戸、床下浸水427戸の大きな被害を受けたことから、直轄河川激甚災害対策特別緊急事業が採択された。事業期間は平成7年度～平成12年度で、肱川・矢落川の10地区(東大洲、春賀、伊洲子、八多喜、豊中、岡、白滝、田淵、柿早、大和地区、堤防整備延長5.8km)で平成7年7月洪水規模(1/15)の再度災害を防止するための事業が行われた。 肱川の激甚災害対策特別緊急事業の完成を記念して、白滝に肱川治水碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛35</a>
					<p>■長浜町の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業(肱川水系) 平成7年7月梅雨前線による豪雨により、東大洲地区から大和橋付近の区間では浸水被害を受けた。平成7年9月の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業の事業採択により、東大洲地区から大和橋付近の10地区で河川改修計画がなされ、長浜町では岡、豊中、柿早、加屋、田ノ淵、郷(下須戒)の6地区が対象となり、工事に着手した。長浜町の築堤整備の延長は約3.5kmに及んだ。平成12年11月には白滝地区で完成を祝い、記念の碑除幕式が行われた。 肱川の激甚災害対策特別緊急事業の完成を記念して、白滝に肱川治水碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛99</a>
愛媛8	<p>古野小学校跡地の碑</p> 	愛媛県	四国中央市	河川	<p>■新宮ダムと新宮村の対応 新宮ダム建設事業は、洪水調節と発電を目的にするとともに、新宮地点から愛媛県に分水を行い、愛媛県の工業用水及び農業用水を確保するものである。事業主体は水資源開発公団で、昭和45年3月に新宮ダム調査所が伊予三島市に開設されて建設が始まった。新宮ダムによる新宮村の水没戸数は65世帯であったが、水没補償の交渉は比較的短期間で妥結に至った。新宮ダム工事は昭和50年10月に竣工、その後地すべり対策工事が行われ、昭和52年3月に新宮ダム建設事業が完了した。 水没した古野小学校跡地の碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川愛媛106</a>
愛媛9	<p>除けの堰堤の標識</p> 	愛媛県	東温市	河川	<p>■重信川砂防堰堤(除けの堰堤)(重信川水系) 重信川砂防堰堤(旧大畑堰堤)は、赤木正雄によって重信川流域砂防工事の総仕上げとして建設されたものである。重信川の砂防工事は大正8年度から開始され、本流の字岡、西河原、樋などで護岸工事を行い、これを基礎にして山腹工事が行われた。このため、本流への土砂の流出を止めることができたが、本流の大畑付近ではまだ多量の土砂が堆積し、出水ごとに流出して下流の河状を悪化させていた。これを防止するためにつくられたのが重信川砂防堰堤で、昭和7～9年度の3カ年の継続事業として行われた。 除けの堰堤の標識が建てられている。</p>	<a href="#">河川愛媛110</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛10	国道改築記念碑(国道197号) 	愛媛県	伊方町	道路	<b>■三崎地区(佐田岬地区)改良工事(国道197号)</b> 国道197号の八幡浜市矢野町から三崎町に至る54.5km(旧道)の間は、愛媛県により改築された区間を除いて、平均幅員3.6mの狭小な道路であったため、早期の改築が望まれていた。このため、昭和45年度に八幡浜バイパスで改築事業が開始されたのに引き続き、順次事業化された。施工区間には、トンネルが大峠トンネル外19箇所、橋梁が堀切大橋外31箇所計画され、総延長が38.9kmとなり、旧道と比べて延長で約16km、時間で60分短縮された。昭和62年12月に全線完成供用し、管理を県に引き継いだ。 伊方町の国道197号堀切大橋付近に国道改築記念碑が建立されている。	<a href="#">道路愛媛31</a>
					<b>■瀬戸町の国道197号</b> 県道八幡浜～三崎線の開通は昭和33年であった。昭和37年には二級国道に格上げされて国道197号線となり、大洲・大分を結ぶ重要路線として全線舗装され、改修も常に行われた。また、国道197号の新設工事が進み、一部に工事を残すものの、全線開通は間近である。昭和44年4月より三崎・佐賀関間を結ぶ国道九四フェリーが運航を開始しており、愛媛県と大分県を結ぶ新路線の全線開通後への期待は大きい。 国道197号は昭和62年に全線開通した。堀切大橋付近に国道改築記念碑が建立されている。	<a href="#">道路愛媛133</a>
					<b>■佐田岬半島部の改築工事(国道197号)</b> 八幡浜市矢野町から三崎町に至る延長54.2kmの間は、愛媛県により改築がなされた八幡浜市大平から保内町川之石間3.0kmを除いて平均幅員3.6mの狭小な道路である。計画路線選定のための調査が昭和41年度から開始され、佐田岬半島の山頂付近を縦走するスカイラインルートに決定された。トンネルが大峠トンネル外20箇所、橋梁が塩成大橋ほか2箇所、総計画延長は35.3kmとなり、旧道と比較して約16km短縮される。昭和45年度に八幡浜市で改築事業が開始され、その後順次事業化された。 国道197号は昭和62年に全線開通した。堀切大橋付近に国道改築記念碑が建立されている。	<a href="#">道路愛媛142</a>
愛媛11	内海ふれあいトンネル 開通記念碑 	愛媛県	愛南町	道路	<b>■内海ふれあいトンネル(国道56号)</b> 内海村を通る国道56号の内海トンネルは、昭和45年に延長859m、全幅8.0mで完成したが、交通量の増加に加え、内海村内の中学校の統合により、狭い内海トンネルを中学生が通学に利用せざるを得なくなり、交通事故の危険性が高くなった。このため、既設トンネルと平行して歩道トンネルを設けることとし、平成元年度に調査に着手、平成2年度に工事着工、平成4年度に完成した。 内海ふれあいトンネル開通記念碑が建立されている。	<a href="#">道路愛媛35</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■内海ふれあいトンネル(国道56号)</p> <p>国道56号内海トンネルは、昭和45年の開通以来、須ノ川地区の中学生が通学路として使っていたが、交通量が多く危険性が高かった。昭和62年に村内の中学校の統合により、柏・柏崎地区の中学生が須ノ川地区の内海中学校への通学路として使い始めたのを契機に、柏・柏崎地区の住民から要望が出され、既設トンネルに平行する歩道トンネル(自転車歩行者道)を設けることとした。平成元年に調査を開始、平成2年に着工し、平成4年に「内海ふれあいトンネル」(延長1,060m、幅員4.0m)が完成した。</p> <p>内海ふれあいトンネル開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛175</a>
愛媛12	<p>来島海峡サービスエリアの慰霊碑</p> 	愛媛県	今治市	道路	<p>■西瀬戸自動車道</p> <p>西瀬戸自動車道(本州四国連絡道路尾道～今治ルート)は、尾道市と今治市を結ぶ約60kmの自動車専用道路である。昭和50年12月に大三島橋が着工され、その後、昭和56年に伯方・大島大橋、昭和61年に生口橋、昭和63年に来島海峡大橋、平成2年に多々羅大橋、平成5年に新尾道大橋が着工された。その間に大三島橋、因島大橋、伯方・大島大橋、生口橋が次々に完成し、供用を開始した。平成11年5月、新尾道大橋、多々羅大橋、来島海峡大橋の同時完成により、供用中区間を含めて、全線が開通した。</p> <p>来島海峡サービスエリアに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛40</a>
					<p>■来島海峡大橋(西瀬戸自動車道)</p> <p>来島海峡大橋は、大島と今治の間の約4kmの来島海峡に架かる世界初の三連吊橋である。大島側から来島海峡第一大橋、来島海峡第二大橋、来島海峡第三大橋の三つの吊橋で構成される。本橋は昭和62年12月に事業化が認められ、平成2年9月に本格着工した。来島海峡大橋は、激しい潮流という自然環境や、大型船が航行する国際航路であるという困難な条件のもとで建設が行われた。平成11年5月に来島海峡大橋は多々羅大橋、新尾道大橋とともに完成し、尾道～今治ルートの全ての海峡部橋梁が開通した。</p> <p>来島海峡サービスエリアに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛43</a>
					<p>■西瀬戸自動車道</p> <p>国道317号西瀬戸自動車道(尾道・今治ルート)は、尾道市で国道2号バイパスより分岐し、向島、因島、生口島、大三島、伯方島、大島、馬島等の島々を結び、今治市で国道196号に接続する延長約60kmの自動車専用道路である。この道路は、本州、四国を一つに結び、全国的な高規格幹線道路網の一環を形成するとともに、地域の産業、経済、文化等の発展に資することを目的として計画されたものである。</p> <p>来島海峡サービスエリアに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛115</a>
					<p>■瀬戸内海大橋の架橋(西瀬戸自動車道)</p> <p>瀬戸内海大橋は、今治市から尾道に至る9つの島を10橋で結ぶ延長60.7km(陸上50.9km、橋梁9.8km)の大事業である。昭和48年11月に起工式を予定していたが、着工直前に国の内外の事情から公共投資が全面的に抑止され、本工事も延期されるに至った。世界にも類例のない長大橋群の創造により、物心両面にわたる開発効果が期待される。</p> <p>来島海峡サービスエリアに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛132</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛13	サイクリストの聖地碑 	愛媛県	今治市	道路	<p>■多々羅大橋(西瀬戸自動車道)</p> <p>多々羅大橋は生口島と大三島を結ぶ中央支間長890mの世界最長の斜張橋である。本橋の形式は昭和48年計画当時は補剛トラス吊橋であったが、その後の技術進歩に伴い橋梁形式の再検討が行われ、斜張橋とすることになった。平成2年8月に着工し、平成11年5月に多々羅大橋は来島海峡大橋、新尾道大橋とともに完成し、尾道～今治ルート全ての海峡部橋梁が開通した。多々羅大橋は平成7年1月に同じ斜張橋であるフランス・ノルマンディ橋と姉妹橋縁組を結んだ。道の駅多々羅しまなみ公園にサイクリストの聖地碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛41</a>
愛媛14	堀切大橋の標識 	愛媛県	伊方町	道路	<p>■堀切大橋(国道197号)</p> <p>堀切大橋は、佐田岬半島のほぼ中央に位置し、当区間における橋梁32橋のうち最大規模である。架橋地点は、風光明媚な佐田岬半島の尾根にあたり、瀬戸内海側と宇和海側を結ぶ県道の上空約65mに直交する橋梁で、深いV字谷地形、層理面に弱点がある地形、半島を吹き抜ける強い季節風、南北からの見通しがよく景観にも配慮した橋梁形式が求められた。比較検討の結果、上落式ローゼ桁、いわゆる逆ローゼ桁と決定した。工期は昭和61年7月～62年6月である。国道197号堀切大橋に標識が建てられている。</p>	<a href="#">道路愛媛80</a>
愛媛15	弓削大橋開通記念碑 	愛媛県	上島町	道路	<p>■弓削大橋(県道岩城弓削線)</p> <p>弓削大橋は、弓削島と佐島を隔てる弓削瀬戸をまたぐ総延長980mの斜張橋である。両島を結ぶ架橋は「町を一つに」という町民の悲願であった。架橋事業は広域市町村構想に基づいて、上島架橋の早期整備を図ったことに始まる。昭和63年度には県の重点施策として弓削大橋架橋計画・調査が開始され、平成元年度には町道佐島循環線橋梁整備(国庫補助)事業が採択された。平成2年7月に弓削町から愛媛県に事業委託され、平成8年3月に完成した。町道佐島循環線は平成8年4月に県道岩城弓削線に昇格した。弓削大橋記念公園に弓削大橋開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛94</a>
愛媛16	檜垣翁碑 	愛媛県	久万高原町	道路	<p>■三坂峠の改修(国道33号)</p> <p>藩政期の土佐街道は、松山市荏原から久谷を経て三坂峠に通じていたが、桜から峠まで急峻な坂道が2kmも続き、難所となっていた。このため、上浮穴郡長檜垣伸の尽力により明治27年に三坂新道が土佐街道の西に建設された。三坂新道の完成により、麓から峠に至る道は土佐街道の急坂から約10kmの緩やかな登り坂に変わり、明治・大正時代は主に馬車道として利用された。昭和42年には国道33号の改築(三坂峠及び砥部坂工事)が完成し、三坂峠を一変させた。三坂峠付近に檜垣翁碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛101</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■四国新道(国道33号)</p> <p>明治17年に大久保謙之丞が四国新道を提唱した時、高知県と愛媛県をつなぐ予土横断道路の開削計画も練られていた。この予土横断道路に丸亀・多度津～高知ルートを加えて、明治18年に愛媛県、高知県、徳島県の3県(香川県の分離独立は明治21年12月)で四国新道開削計画が内務省に提出された。明治19年4月、四国新道の起工式が琴平宮で行われ、明治20年9月に三坂峠の開削が完成した。四国新道のうち愛媛県分の工事は明治25年8月に落出橋の渡船場の完成を期して竣工し、三坂峠で完工式が行われた。</p> <p>三坂峠付近に檜垣翁碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛139</a>
愛媛17	<p>檜垣伸翁の顕彰碑(桧垣桜公園)</p> 	愛媛県	久万高原町	道路	<p>■三坂峠の改修(国道33号)</p> <p>藩政期の土佐街道は、松山市荏原から久谷を経て三坂峠に通じていたが、桜から峠まで急峻な坂道が2kmも続き、難所となっていた。このため、上浮穴郡長檜垣伸の尽力により明治27年に三坂新道が土佐街道の西に建設された。三坂新道の完成により、麓から峠に至る道は土佐街道の急坂から約10kmの緩やかな登り坂に変わり、明治・大正時代は主に馬車道として利用された。昭和42年には国道33号の改築(三坂峠及び砥部坂工事)が完成し、三坂峠を一変させた。</p> <p>明神の桧垣桜公園に檜垣伸翁の顕彰碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛101</a>
					<p>■四国新道(国道33号)</p> <p>明治17年に大久保謙之丞が四国新道を提唱した時、高知県と愛媛県をつなぐ予土横断道路の開削計画も練られていた。この予土横断道路に丸亀・多度津～高知ルートを加えて、明治18年に愛媛県、高知県、徳島県の3県(香川県の分離独立は明治21年12月)で四国新道開削計画が内務省に提出された。明治19年4月、四国新道の起工式が琴平宮で行われ、明治20年9月に三坂峠の開削が完成した。四国新道のうち愛媛県分の工事は明治25年8月に落出橋の渡船場の完成を期して竣工し、三坂峠で完工式が行われた。</p> <p>明神の桧垣桜公園に檜垣伸翁の顕彰碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛139</a>
愛媛18	<p>四国高速道路発祥之地記念碑(三島公園)</p> 	愛媛県	四国中央市	道路	<p>■伊予三島市の松山自動車道</p> <p>四国縦貫自動車道の整備計画決定及び施行命令は、善通寺～伊予三島間が昭和47年6月で、伊予三島～土居間が昭和48年10月であった。建設工事は日本道路公団が進められ、四国初の鍬入れ式が昭和55年4月に中之庄町的之尾で行われた。この区間には中央構造線があり、難工事となったが、最新の工法で克服した。松山自動車道三島川之江～土居間の開通式は、昭和60年3月に三島川之江ICで挙行され、四国の高速道路時代の幕開けを祝った。</p> <p>三島公園に四国高速道路発祥之地記念碑が設置されている。</p>	<a href="#">道路愛媛178</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛19	ゆめしま海道の碑 	愛媛県	上島町	道路	<p>■生名橋(県道岩城弓削線) 生名橋は、上島町の生名島(旧生名村)と佐島(旧弓削町)を結ぶ橋長515m、中央支間315mの3径間の鋼・コンクリート混合斜張橋である。平成16年3月に国土交通省四国地方整備局より予算成立に伴う事業概要の発表があり、上島架橋構想の一環として事業化された。 生名橋は平成23年2月に開通した。上島架橋は、上島町の岩城島を起点に、生名島、佐島を経て弓削島に至る県道岩城弓削線に架かる弓削大橋、生名橋、岩城橋の3橋の総称である。平成26年に「ゆめしま海道」の愛称が制定された。 佐島にゆめしま海道の碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路愛媛185</a>
愛媛20	小林信近翁像の碑 	愛媛県	松山市	鉄道	<p>■伊予鉄道松山～三津間(伊予鉄道高浜線) 明治19年1月に小林信近らは県令に軽便鉄道の敷設願を提出、同年12月に許可され、明治20年9月に伊予鉄道会社が発足した。明治21年5月に軌条敷設工事に着工、同年9月に竣工、同年10月に開業した。開業前に松山停車場で花火、餅まき、相撲などの鉄道落成式が行われた。営業区間は松山～三津間6.4kmで、松山、三津口、三津の3駅が設けられた。駅名は明治22年に松山を外側、三津口を古町に改称し、外側は明治35年に再び松山と改められた。軌間762ミリの軽便鉄道で、松山～三津間の所要時間は28分であった。 松山市駅に小林信近翁像の碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛1</a>
					<p>■伊予鉄道松山～三津間(伊予鉄道高浜線) 製材を大阪方面に輸送していた小林信近は、松山～三津浜間の運搬費が三津～大阪間の海上運賃より高いことから、交通機関の改善の必要を強く感じていた。小林は明治18年に鉄道局に松山～三津間の軽便鉄道の願書を申請し却下されたが、明治19年に再度願書を提出し許可を得て、明治20年9月に伊予鉄道会社を創立した。明治21年9月に松山、三津口(現古町)、三津停留場の建設工事が竣工し、同年10月に営業を開始した。松山～三津間の所要時間は28分であった。 松山市駅に小林信近翁像の碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛2</a>
					<p>■伊予鉄道(伊予鉄道高浜線・横河原線・郡中線・松山市内線) 明治20年に小林信近らにより設立された伊予鉄道会社は、明治21年に松山～三津間6kmに軌間2フィート6インチ(762ミリ)のわが国最初の軽便鉄道を開通させた。その後、明治25年に三津～高浜間3.4km、明治26年に松山～平井間3.4kmを延長し、明治29年に松山～森松間4.4kmを開通させ、明治32年に松山～横河原間13.2kmを全通させた。伊予鉄道は明治33年に道後鉄道(明治28年に一番町～道後～三津口間を開業)と南予鉄道(明治29年に松山～郡中間11.3kmを開業)と合併して、伊予鉄道と称した。 松山市駅に小林信近翁像の碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛7</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■伊予鉄道(伊予鉄道高浜線・横河原線・郡中線・松山市内線)</p> <p>伊予鉄道の開業以来、軽便鉄道流行の時代を迎え、明治28年に道後鉄道が開業し、一番町から道後、城北を経て三津口まで運行した。また、明治29年には南予鉄道が開業し、郡中～松山間を運行した。道後鉄道の三津口駅と伊予鉄道の古町駅、南予鉄道の藤原駅と伊予鉄道の外側駅(現松山市駅)は互いに隣接していたので、明治33年に3社合併が実現し、伊予鉄道が両社の路線を引き継いだ。合併後、伊予鉄道は線路の直線化を図り、藤原駅を廃し外側駅を拡張して併せたほか、三津口駅も古町駅に移転吸収した。</p> <p>松山市駅に小林信近翁像の碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛8</a>
愛媛21	煉瓦橋のプレート(松山市景観形成重要建造物指定) 	愛媛県	松山市	鉄道	<p>■煉瓦橋(伊予鉄道横河原線)</p> <p>明治25年に建設された煉瓦橋は、外側駅(現松山市駅)を出て石手川の土手に差しかかる際に、軌道で道路を遮らないよう煉瓦暗渠として築造したものである。明治26年に平井河原駅が開業した際に開通した。軌道と車道が斜交しているため、煉瓦の積み方でねじれを修正し工夫している。建設年の判断できる暗渠、隧道の中では県内最古である。</p> <p>煉瓦橋は、松山市により景観形成重要建造物に、土木学会より土木学会選奨土木遺産に指定されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛39</a>
愛媛22	壬生川港改修記念碑 	愛媛県	西条市	港湾・空港	<p>■大正～昭和戦前期の壬生川港(東予港)</p> <p>大正4年3月に壬生川港の最初の港湾改修が着工され、港内の浚渫・拡張、護岸の石垣改築が行われ、同年12月に竣工した。港湾改修により帆船や小型機帆船の入港が容易になり、従来の不便はやや解消された。昭和7年10月には港湾改修及び土地造成事業に着手し、堀川下口に突堤を築き、そこを壬生川外港とするために浚渫し、同時に浚渫土砂で突堤の北側に土地造成を行い、昭和11年3月に竣工した。この港湾改修により、汽船や機帆船の接岸が可能となり、港の機能は大幅に向上した。</p> <p>西宮神社に壬生川港改修記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港愛媛15</a>
愛媛23	中原町長頌功碑 	愛媛県	宇和島市	港湾・空港	<p>■明治～昭和戦前期の宇和島港</p> <p>宇和島町の要望に対して、県は明治42年に宇和島港改修工事に着手し、内港の浚渫と外堀の埋立を行い、明治43年に竣工した。大正11～14年には内港の浚渫と泉屋新田の埋立を行うとともに、朝日運河の築造工事を行った。宇和島市は昭和5～7年に須賀川の付替工事を行った上で、昭和8年から第一期工事としての新内港修築工事を行い、昭和14年に竣工した。昭和16年からは固定棧橋の増築や陸上施設の充実に重点を置いた第二期工事に着手し、昭和19年に竣工したが、昭和20年7月の空襲で港湾施設は焼失した。</p> <p>宇和島内港の修築に尽力した中原町長の頌功碑が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港愛媛31</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛24	大谷池記念碑 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池の築造</p> <p>大正11年の大干ばつと大正12年の大水害を機に、南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外3か村耕地整理組合を設立し、昭和5年12月に県営用排水改良事業として県議会に提案、否決されたが、昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に工事が開始された。昭和9年の室戸台風により基礎工事がほとんど流失埋没する被害を受けたが、漏水防止のために苦勞しつつ、昭和17年度からは耕地整理組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。工事従事者は延べ37万3,000人に及んだ。</p> <p>大谷池のほとりに大谷池記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛1</a>
愛媛25	武智惣五郎氏頌徳碑 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池の築造</p> <p>大正11年の大干ばつと大正12年の大水害を機に、南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外3か村耕地整理組合を設立し、昭和5年12月に県営用排水改良事業として県議会に提案、否決されたが、昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に工事が開始された。昭和9年の室戸台風により基礎工事がほとんど流失埋没する被害を受けたが、漏水防止のために苦勞しつつ、昭和17年度からは耕地整理組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。工事従事者は延べ37万3,000人に及んだ。</p> <p>大谷池のほとりに武智惣五郎氏頌徳碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛1</a>
愛媛26	大谷池築造殉職者慰霊塔 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池の築造</p> <p>大正11年の大干ばつと大正12年の大水害を機に、南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外3か村耕地整理組合を設立し、昭和5年12月に県営用排水改良事業として県議会に提案、否決されたが、昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に工事が開始された。昭和9年の室戸台風により基礎工事がほとんど流失埋没する被害を受けたが、漏水防止のために苦勞しつつ、昭和17年度からは耕地整理組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。工事従事者は延べ37万3,000人に及んだ。</p> <p>大谷池のほとりに大谷池築造殉職者慰霊塔が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛1</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛27	武智惣五郎翁像 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池の築造</p> <p>大正11年の大干ばつと大正12年の大水害を機に、南伊予村長の武智惣五郎は大正12年に大谷池築造を決意した。大正13年に南伊予村外3か村耕地整理組合を設立し、昭和5年12月に県営用排水改良事業として県議会に提案、否決されたが、昭和6年1月に内務省より許可され、昭和7年に工事が開始された。昭和9年の室戸台風により基礎工事がほとんど流失埋没する被害を受けたが、漏水防止のために苦勞しつつ、昭和17年度からは耕地整理組合に代わって県が直営方式で工事を進め、昭和20年3月に完成した。工事従事者は延べ37万3,000人に及んだ。伊予小学校に武智惣五郎翁像が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛1</a>
愛媛28	大谷池改修事業記念碑 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池改修工事</p> <p>大谷池は完成から半世紀以上が経過すると老朽化が顕著になり、堤体などから漏水するようになった。このため、平成12年から愛媛県が県営ため池等整備事業として堤体の大改修工事に着手し、平成17年に完成した。ここに県下最大のため池にふさわしい施設として再び甦った。平成18年5月には加戸守行知事を現地に迎え、竣工記念式典が挙行された。大谷池のほとりに大谷池改修事業記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛2</a>
愛媛29	全国ため池百選記念碑 	愛媛県	伊予市	ため池	<p>■大谷池改修工事</p> <p>大谷池は完成から半世紀以上が経過すると老朽化が顕著になり、堤体などから漏水するようになった。このため、平成12年から愛媛県が県営ため池等整備事業として堤体の大改修工事に着手し、平成17年に完成した。ここに県下最大のため池にふさわしい施設として再び甦った。平成18年5月には加戸守行知事を現地に迎え、竣工記念式典が挙行された。大谷池のほとりに全国ため池百選記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">ため池愛媛2</a>
愛媛30	石鎚の水ここに展く碑 	愛媛県	東温市	用水	<p>■道前道後用水事業</p> <p>道前道後用水事業は、面河村笠方に面河ダムを築造し、それを水源として道前道後平野の耕地13,198haに農業用水を補給するとともに、松山市の臨海工業用水を確保し、あわせて導水途中の落差利用により3つの発電所で水力発電を行うものである。道前道後平野農業水利事業は昭和32年度に工事着工され、面河ダムの水没補償、仁淀川分水交渉等を経て、昭和39年1月に面河ダムの水が中山川に放流され、同年4月に工業用水が、同年6月には農業用水が配水された。昭和42年9月に道前道後農業水利事業の竣工式が行われた。道前道後第三発電所上の国道11号沿いに「石鎚の水ここに展く碑」が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛1</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■道前道後平野農業水利事業</p> <p>道前道後平野農業水利事業は、中山川流域の道前平野と重信川流域の道後平野の関係者が一体となって、仁淀川水系に築造した面河ダムを水源として農業用水を供給する国営農業水利事業である。昭和32年度に国の予算で工事着工が認められ、昭和35年には高知県との分水交渉が妥結し、昭和35年10月に面河ダムの起工式が、昭和42年9月に道前道後平野農業水利事業竣工式が行われた。事業内容は面河ダム、承水施設、放水導水施設、地区内幹線水路(道前平野地区内水路延長33.5km、道後平野地区内水路延長39.8km)である。</p> <p>道前道後第三発電所上の国道11号沿いに「石鎚の水ここに展く碑」が建立されている。</p>	<p><a href="#">用水愛媛3</a></p>
愛媛31	<p>水徳治豫洲の碑</p> 	愛媛県	久万高原町	用水	<p>■面河ダム(道前道後用水事業)</p> <p>面河ダムは昭和35年10月に起工され、昭和36年12月には定礎式が行われてコンクリート打設が始まり、昭和40年4月に竣工式が行われた。ダムの流域面積は76.13平方キロで、このうち直接流域が16.82平方キロと狭いのが特色である。規模は堤高73.5m、堤長159.0m、堤体積190,102m<sup>3</sup>、総貯水量2,830万m<sup>3</sup>、有効貯水量2,680万m<sup>3</sup>である。面河ダムでは堆砂現象が少ないが、これは直接流域面積が狭いため土砂の流入がほとんどないことや、周囲の地形がなだらかで山腹崩壊などの災害が少ないことなどによる。</p> <p>面河ダムのほとりに水徳治豫洲の碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">用水愛媛2</a></p>
愛媛32	<p>国営道前道後平野農業水利(二期)事業完工碑</p> 	愛媛県	東温市	用水	<p>■道前道後平野農業水利(二期)事業</p> <p>面河ダムを築造し道前道後平野に導水する道前道後平野農業水利事業は昭和32年に事業着手、昭和42年に完成し、道前平野及び道後平野の発展に貢献してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による冬期灌漑用水の確保等新しい水需要への対応が要望されるとともに、施設の老朽化が課題となってきた。このため、既存水利施設の改修、志河川ダム及び佐古ダムの築造、志河川幹線用水路を整備する国営道前道後平野農業水利事業を行うこととした。平成元年度に工事着手し、現在事業中である。</p> <p>道前道後第三発電所上の国道11号沿いに国営道前道後平野農業水利(二期)事業完工碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">用水愛媛4</a></p>
愛媛33	<p>志河川ダムの碑</p> 	愛媛県	西条市	用水	<p>■道前道後平野農業水利(二期)事業</p> <p>面河ダムを築造し道前道後平野に導水する道前道後平野農業水利事業は昭和32年に事業着手、昭和42年に完成し、道前平野及び道後平野の発展に貢献してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による冬期灌漑用水の確保等新しい水需要への対応が要望されるとともに、施設の老朽化が課題となってきた。このため、既存水利施設の改修、志河川ダム及び佐古ダムの築造、志河川幹線用水路を整備する国営道前道後平野農業水利事業を行うこととした。平成元年度に工事着手し、現在事業中である。</p> <p>志河川ダムのほとりに志河川ダムの碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">用水愛媛4</a></p>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛34		愛媛県	東温市	用水	<p>■道前道後平野農業水利(二期)事業 面河ダムを築造し道前道後平野に導水する道前道後平野農業水利事業は昭和32年に事業着手、昭和42年に完成し、道前平野及び道後平野の発展に貢献してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による冬期灌漑用水の確保等新しい水需要への対応が要望されるとともに、施設の老朽化が課題となってきた。このため、既存水利施設の改修、志河川ダム及び佐古ダムの築造、志河川幹線用水路を整備する国営道前道後平野農業水利事業を行うこととした。平成元年度に工事着手し、現在事業中である(平成3年現在)。佐古ダムのほとりに佐古の恵水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛4</a>
					<p>■佐古ダム(道前道後平野農業水利事業) 道前道後平野農業水利事業は昭和42年に完成し、面河ダムを築造し灌漑期の用水を確保してきたが、その後の社会情勢の変化に伴い、畑作振興による非灌漑期の灌漑用水の確保等、新しい水需要への対応が必要となった。このため、重信川水系佐川川にある既存の佐古谷池を撤去し、佐古ダムを築造することにより、非灌漑期の水田裏作670ha及び輪換畑470haの農業用水を確保することとした。佐古ダムは、農林水産省が平成8年に着工し、平成12年度に完成した。佐古ダムのほとりに佐古の恵水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛5</a>
愛媛35		愛媛県	八幡浜市	用水	<p>■南予用水事業 南予用水事業は、昭和42年の干ばつを契機に愛媛県が昭和45年に南予水資源開発計画を策定したことに始まる。昭和49年に宇和・野村の2町の同意を得て野村ダムの建設が始まった。南予用水は、野村ダムの水を法華津峠の下を通し、吉田町大河内で北幹線と南幹線に分岐し、北幹線は八幡浜の布喜川調整池と伊方調整池に通して三崎町まで運び、南幹線は宇和島市内の三浦半島まで配水され、途中から九島へ海底パイプラインにより配水するもので、平成8年度に完成した。布喜川調整池の碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛8</a>
					<p>■南予用水農業水利事業 南予用水農業水利事業は、野村ダムから取水してみかん園に農業用水を供給し、渇水被害の軽減、薬剤散布の労力軽減などにより地域のみかん農業の基盤を強化することを目的に実施された。事業は、農林省により昭和46～47年度に地区調査計画、昭和48年度に全体実施設計を経て昭和49年10月に着工した。受益地は2市7町の5,763haを対象としていたが、その後受益地拡大の要望を受け、事業計画の変更が必要となり、平成元年度に受益地を2市7町の7,200haに拡大して、平成8年度に工事が完了した。布喜川調整池の碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛9</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛36	<p>南予用水碑</p> 	愛媛県	八幡浜市	用水	<p>■南予用水事業</p> <p>南予用水事業は、昭和42年の干ばつを契機に愛媛県が昭和45年に南予水資源開発計画を策定したことに始まる。昭和49年に宇和・野村の2町の同意を得て野村ダムの建設が始まった。南予用水は、野村ダムの水を法華津峠の下を通し、吉田町大河内で北幹線と南幹線に分岐し、北幹線は八幡浜の布喜川調整池と伊方調整池に通して三崎町まで運び、南幹線は宇和島市内の三浦半島まで配水され、途中から九島へ海底パイプラインにより配水するもので、平成8年度に完成した。布喜川調整池のほとりに南予用水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛8</a>
					<p>■南予用水農業水利事業</p> <p>南予用水農業水利事業は、野村ダムから取水してみかん園に農業用水を供給し、渇水被害の軽減、薬剤散布の労力軽減などにより地域のみかん農業の基盤を強化することを目的に実施された。事業は、農林省により昭和46～47年度に地区調査計画、昭和48年度に全体実施設計を経て昭和49年10月に着工した。受益地は2市7町の5,763haを対象としていたが、その後受益地拡大の要望を受け、事業計画の変更が必要となり、平成元年度に受益地を2市7町の7,200haに拡大して、平成8年度に工事が完了した。布喜川調整池のほとりに南予用水碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛9</a>
愛媛37	<p>南予用水農業水利事業完工之碑</p> 	愛媛県	八幡浜市	用水	<p>■南予用水事業</p> <p>南予用水事業は、昭和42年の干ばつを契機に愛媛県が昭和45年に南予水資源開発計画を策定したことに始まる。昭和49年に宇和・野村の2町の同意を得て野村ダムの建設が始まった。南予用水は、野村ダムの水を法華津峠の下を通し、吉田町大河内で北幹線と南幹線に分岐し、北幹線は八幡浜の布喜川調整池と伊方調整池に通して三崎町まで運び、南幹線は宇和島市内の三浦半島まで配水され、途中から九島へ海底パイプラインにより配水するもので、平成8年度に完成した。布喜川調整池のほとりに南予用水農業水利事業完工之碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛8</a>
					<p>■南予用水農業水利事業</p> <p>南予用水農業水利事業は、野村ダムから取水してみかん園に農業用水を供給し、渇水被害の軽減、薬剤散布の労力軽減などにより地域のみかん農業の基盤を強化することを目的に実施された。事業は、農林省により昭和46～47年度に地区調査計画、昭和48年度に全体実施設計を経て昭和49年10月に着工した。受益地は2市7町の5,763haを対象としていたが、その後受益地拡大の要望を受け、事業計画の変更が必要となり、平成元年度に受益地を2市7町の7,200haに拡大して、平成8年度に工事が完了した。布喜川調整池のほとりに南予用水農業水利事業完工之碑が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛9</a>

愛媛県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
愛媛38	山緑水豊地の碑(南予用水事業完工記念碑) 	愛媛県	宇和島市	用水	<p>■南予農業用水事業と宇和島市</p> <p>南予用水農業用水事業は、南予地区2市7町7,200ha(宇和島市750ha)の樹園地に農業用水を供給する計画のもと事業が実施された。宇和島市では昭和49年12月に宇和島市土地改良区が設立されて、本格的に事業への取り組みが始まった。野村ダムを水源として、吉田導水路6.4kmを経て、吉田分水工より南幹線水路として三浦に至る国営幹線水路として27.1kmが設置され、県営かんがい排水事業として幹線水路21.2kmの管路工と30箇所の配水槽が設置された。末端施設までの全事業が完了したのは平成13年度であった。</p> <p>東蓮寺ダムのほとりに山緑水豊地の碑(南予用水事業完工記念碑)が建立されている。</p>	<a href="#">用水愛媛11</a>
愛媛39	鉄道開通記念碑(双岩駅) 	愛媛県	八幡浜市	鉄道	<p>■予讃線八幡浜～卯之町間(JR予讃線)</p> <p>八幡浜～卯之町間の路線は、三瓶迂回問題のため決定が遅れていたが、昭和10月に南予鉄道速成同盟会が結成され、早期建設の実現を要請した。ようやく昭和18年9月に八幡浜～卯之町間の工事着工が確定したが、労力と資材、特にレールが問題であった。やむを得ず知事の斡旋により伊予鉄の松山～高浜間のレールを供出してもらい、労力の奉仕は青年団や一般住民が動員され、枕木や砂利を提供して、八幡浜～卯之町間は昭和20年6月に完成し、同年7月から予讃線は高松～宇和島間が全通した。</p> <p>双岩駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛103</a>
					<p>■予讃線伊予大洲～宇和島間(JR予讃線)</p> <p>予讃線は昭和11年9月に伊予大洲～伊予平野間が開業し、昭和14年2月に伊予平野～八幡浜間が開業した。続いて昭和16年7月に宇和島～卯之町間が開業し、宇和島鉄道の買収線(宇和島～吉野生間)と一括して宇和島線と称した。八幡浜～卯之町間は昭和17年から工事が始められたが、戦時下で工事が進展しなかったものの、地元の勤労奉仕隊員約5万人が動員されて昭和20年6月に開通し、予讃線は全通した。</p> <p>双岩駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛106</a>
					<p>■予讃線と八幡浜市</p> <p>四国鉄道循環線敷設に関しては103号線(大洲～八幡浜～宮野下ルート)と104号線(大洲～日吉～近永ルート)の誘致をめぐる意見対立があったが、昭和8年に103号線に決定された。昭和8年2月に国鉄夜昼トンネル工事に着工、昭和14年2月に貫通し、平野～八幡浜間が開通して予讃本線は八幡浜まで延長された。昭和16年には宇和島～卯之町間が開通し、八幡浜～卯之町間は昭和17年に工事着手し、国土防衛上の必要から勤労奉仕隊員約5万人が動員され、昭和20年6月に開通し、予讃本線が全通した。</p> <p>双岩駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道愛媛107</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知1	四国のいのち碑 	高知県	土佐町	河川	<b>■早明浦ダム(吉野川水系)</b> 早明浦ダムは洪水調節、不特定利水、灌漑、都市用水の供給、発電を目的とした多目的ダムである。治水については吉野川水系工事实施基本計画の一環として、このダムでは治水容量9,000万m <sup>3</sup> を利用し、2,700m <sup>3</sup> /sの調整を行う。また、利用容量2億900万m <sup>3</sup> を利用し、吉野川下流の不特定利水の補給を行うとともに、新規用水として年間8億6,300万m <sup>3</sup> を開発して四国四県に供給する。本ダムは昭和38年度に実施計画調査を開始し、昭和42年度より水資源開発公団に移管され、昭和53年3月に完工した。 早明浦ダムに四国のいのち碑が建立されている。	<a href="#">河川高知1</a>
					<b>■早明浦ダム(吉野川水系)</b> 早明浦ダムは池田、新宮などのダムと相まって四国四県の上水道用水、工業用水ならびに徳島県、香川県・愛媛県の農業用水の確保、洪水調節、不特定かんがい及び発電の用に資するものである。工事は昭和40年4月に建設省により工事用道路などの準備工事から始まったが、昭和42年4月に早明浦ダムの建設事業は建設省から水資源開発公団に引き継がれた。ダム本体工事は昭和48年3月に完成したが、その後、貯水池の濁水問題や出水の発生への対応を行い、昭和54年3月にすべての工事を完了した。 早明浦ダムに四国のいのち碑が建立されている。	<a href="#">河川高知2</a>
高知2	早明浦ダムの殉職者慰霊碑 	高知県	土佐町	河川	<b>■早明浦ダム(吉野川水系)</b> 早明浦ダムは洪水調節、不特定利水、灌漑、都市用水の供給、発電を目的とした多目的ダムである。治水については吉野川水系工事实施基本計画の一環として、このダムでは治水容量9,000万m <sup>3</sup> を利用し、2,700m <sup>3</sup> /sの調整を行う。また、利用容量2億900万m <sup>3</sup> を利用し、吉野川下流の不特定利水の補給を行うとともに、新規用水として年間8億6,300万m <sup>3</sup> を開発して四国四県に供給する。本ダムは昭和38年度に実施計画調査を開始し、昭和42年度より水資源開発公団に移管され、昭和53年3月に完工した。 早明浦ダムに殉職者慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川高知1</a>
					<b>■早明浦ダム(吉野川水系)</b> 早明浦ダムは池田、新宮などのダムと相まって四国四県の上水道用水、工業用水ならびに徳島県、香川県・愛媛県の農業用水の確保、洪水調節、不特定かんがい及び発電の用に資するものである。工事は昭和40年4月に建設省により工事用道路などの準備工事から始まったが、昭和42年4月に早明浦ダムの建設事業は建設省から水資源開発公団に引き継がれた。ダム本体工事は昭和48年3月に完成したが、その後、貯水池の濁水問題や出水の発生への対応を行い、昭和54年3月にすべての工事を完了した。 早明浦ダムに殉職者慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川高知2</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■早明浦ダム(吉野川水系) 早明浦ダムは吉野川総合開発計画の中核を成すもので、洪水調節、流水の正常な機能の維持、利水(かんがい用水、水道用水、工業用水及び発電)を目的とする多目的ダムである。重力式コンクリートダムで、堤高は106mである。四国地方建設局では昭和38年4月に実地計画調査に着手し、工事用道路の建設などを行っていたが、昭和42年4月に早明浦ダムの建設事業が建設省から水資源開発公団に引き継がれ、昭和42年12月にダム本体のコンクリート打設を開始、昭和48年11月に竣工した。 早明浦ダムに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知142</a>
高知3	<p>新中筋川通水記念碑</p> 	高知県	四万十市	河川	<p>■中筋川付替工事(渡川水系) 昭和4年に着手した当初渡川改修計画では、中筋川は渡川との合流点を約1,850m下流の山路地先まで背割堤で下げる計画であったが、昭和10年8月の大洪水に見舞われたため、甲ヶ峯を開削して背割堤をさらに2,650m追加して実崎地先まで延長することにより、中筋川の水位をさらに1.95m低下させてHWL7.40mとすることになった。延長4,500mの背割堤の改修工事は、昭和12年12月に坂本背割堤より着手し、翌13年度には甲ヶ峯の開削工事、翌14年度には山路地区の背割堤に着手した。完成は昭和39年2月であった。 甲ヶ峯に新中筋川通水記念碑が建立されている。</p> <p>■中筋川合流点付替工事(渡川水系) 中筋川合流点付替工事は、中筋川への本川排水影響を軽減するため合流点を下流に付け替えるもので、河口から8.2kmの坂本地点で合流していたものを1,850mの背割堤を建設して下流まで分離し、新合流点を甲ヶ峯地点の6.6kmまで下げるものであった。昭和12年に坂本背割堤防に着工、その後甲ヶ峯開削工事、山路背割堤防工事に着手し、昭和28年に締切部を除いて坂本背割堤防は完成したが、昭和39年に建設工事が終わるまで苦難の連続であった。流路の切り替えを行う通水式は、昭和39年2月に坂本地点で行われた。 甲ヶ峯に新中筋川通水記念碑が建立されている。</p> <p>■甲ヶ峯掘削工事(渡川水系) 戦前に着手していた坂本背割り堤防は昭和29年度末には甲ヶ峯まで延長し、昭和31年には山路背割り堤防にも着工した。さらに昭和32年には甲ヶ峯掘削(中筋川付け替え)工事を再開した。中筋川は河床勾配が極めて緩く、大雨の度に本川の渡川が逆流して洪水を起こしていたため、合流点を下流に付け替え逆流水位を引き下げる計画が立てられ、昭和14年に着手されていたのが、この工事であった。戦後一時中断していたが、渡川改修の最重点工事として施工され、昭和39年2月に完工した。 甲ヶ峯に新中筋川通水記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知7</a>
						<a href="#">河川高知159</a>
						<a href="#">河川高知177</a>

高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知4	史蹟山田堰遺構の標識 	高知県	香美市	河川	<p>■山田堰の撤去(物部川水系) 山田堰は、昭和48年の合同堰の完成とともにその役目を終え、物部川右岸堤防の流頭部に設けられていた取水口は必要がなくなり、昭和48年に農林サイドより受託して取水口の撤去工事を行った。これまでは取水口付近だけが極端にやせた堤防として取り残され、山田堰の堰上げの影響を直接受ける区間だったため、この工事による築堤(約100m)の完成は、流頭部の破堤不安を解消したものであるとして意義は大きい。撤去後の史跡保存と公園化等の検討が行われ、昭和55年以降に関連する護岸・根固工が施工された。 山田堰跡に史蹟山田堰遺構の標識が建てられている。</p> <p>■山田堰公園の整備(物部川水系) 昭和48年の合同堰の完成に伴い山田堰はその役目を終えたが、山田堰を放置することは洪水時に危険であり、疎通能力も不足しているため、山田堰の管理者で撤去することになった。しかし、山田堰は高知県史跡の文化財であるため、山田堰の一部を存置し保存するとともに、高水敷部分は土佐山田町が河川敷公園として整備することになった。高水敷の造成は昭和56年度から実施しているが、昭和57年度から河川環境整備事業により山田地先(右岸側)の低水護岸・高水敷整正に着手し、昭和63年度に完成予定である。 山田堰跡に史蹟山田堰遺構の標識が建てられている。</p> <p>■物部川の河川環境整備事業(物部川水系) 昭和48年度の物部川統合堰の完成に伴い、山田堰は管理者が撤去することになった。しかし、山田堰は昭和4年に高知県史跡として指定された文化財であり、両岸に造成される高水敷部分の山田堰はその一部を存置し保存するとともに、高水敷部分は土佐山田町が河川敷公園として整備することになった。高水敷の造成は昭和56年度から河川改修費により実施し、昭和57年度から河川環境整備事業費により山田地先(右岸側)の低水護岸・高水敷整正に着手し、昭和63年度に完成した。 山田堰跡に史蹟山田堰遺構の標識が建てられている。</p> <p>■山田堰河川敷公園の整備(物部川水系) 山田堰は、役目を終えた後も貴重な文化財として存置を望む運動が起こったが、建設省は洪水時に危険であり疎通能力を低下させるとして撤去を求めた。一方、建設省は野中兼山の偉業を残すことは認め、中央部は撤去したが、西岸70m、東岸20mは高水敷として残した。土佐山田町は高水敷部分を河川敷公園として整備、西岸に撤去された取水口の一部を原形復旧し保存している。高水敷造成は昭和56年度に河川改修として着工、昭和57年度からは河川環境整備事業として引き継ぎ施工し、昭和63年度に完工した。 山田堰跡に史蹟山田堰遺構の標識が建てられている。</p>	<p><a href="#">河川高知24</a></p> <p><a href="#">河川高知27</a></p> <p><a href="#">河川高知65</a></p> <p><a href="#">河川高知148</a></p>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知5	永瀬ダムの銘板 	高知県	香美市	河川	<b>■永瀬ダムの建設(物部川水系)</b> 永瀬ダムは物部川河口より約31.4kmの地点に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和24年に河水統制事業として建設省直轄で調査・計画に着手、昭和25年度から見返資金により本格的な建設に着手し、昭和26年度から公共事業による河川総合開発事業と改称された。永瀬ダムの工事実施は建設省が、永瀬・吉野・杉田の3発電所は県営電気事業として高知県が行うことになった。永瀬ダムは昭和31年6月に完成し、昭和32年8月に建設省から高知県に引き継ぎ移管された。 永瀬ダムに概要を記した銘板が設置されている。	<a href="#">河川高知28</a>
					<b>■永瀬ダム(物部川水系)</b> 永瀬ダムは物部川河口より約31.4kmの在所村永瀬に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和22年度に内務省により実施計画調査が開始され、昭和25年度に建設省により本格的着工、昭和26年度から国土総合開発法に基づく河川総合開発事業として続行された。昭和27年11月にコンクリート打設を開始、その後岩盤の崩落や記録的出水に見舞われながらも対策を講じ、昭和30年5月に1次湛水を開始、昭和31年6月に竣工式を挙行了。すべての工事が終わったのは昭和32年3月であった。 永瀬ダムに概要を記した銘板が設置されている。	<a href="#">河川高知157</a>
高知6	永瀬ダムの慰霊碑 	高知県	香美市	河川	<b>■永瀬ダムの建設(物部川水系)</b> 永瀬ダムは物部川河口より約31.4kmの地点に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和24年に河水統制事業として建設省直轄で調査・計画に着手、昭和25年度から見返資金により本格的な建設に着手し、昭和26年度から公共事業による河川総合開発事業と改称された。永瀬ダムの工事実施は建設省が、永瀬・吉野・杉田の3発電所は県営電気事業として高知県が行うことになった。永瀬ダムは昭和31年6月に完成し、昭和32年8月に建設省から高知県に引き継ぎ移管された。 永瀬ダムに慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川高知28</a>
					<b>■永瀬ダム(物部川水系)</b> 永瀬ダムは物部川河口より約31.4kmの在所村永瀬に建設された洪水調節、かんがい、発電の多目的ダムである。昭和22年度に内務省により実施計画調査が開始され、昭和25年度に建設省により本格的着工、昭和26年度から国土総合開発法に基づく河川総合開発事業として続行された。昭和27年11月にコンクリート打設を開始、その後岩盤の崩落や記録的出水に見舞われながらも対策を講じ、昭和30年5月に1次湛水を開始、昭和31年6月に竣工式を挙行了。すべての工事が終わったのは昭和32年3月であった。 永瀬ダムに慰霊碑が建立されている。	<a href="#">河川高知157</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知7	日下川放水路竣工記念碑 	高知県	日高村	河川	<b>■日下川の激甚災害対策特別緊急事業(仁淀川水系)</b> 昭和50年の台風5号により、日高村の平地部のほとんどが水没したため、昭和51年度から激甚災害対策特別緊急事業を行うことになった。これは、内水排除に最も効果的な地点として日下川と戸梶川の合流点を呑口に選び、仁淀川9k/0地点の八田堰下流に排水する全長4,998mの放水トンネルを新設する計画であった。昭和52年1月に計画について大方の理解が得られ、トンネル部の呑口側第一工区に着工し、昭和52年度には第二、第三工区が着工となり、昭和56年度に完成した。日下川放水路竣工記念碑が建立されている。	<a href="#">河川高知47</a>
					<b>■日下川放水路(仁淀川水系)</b> 昭和35年に旧の日下川放水路が完成したが、この放水路だけでは排水能力が十分ではなく、昭和50年、51年の台風により日高村は大きな水害を受けた。このため、昭和52年1月から国の事業として新しい日下川放水路工事が行われ、昭和57年2月に完成した。沖名入り口の桑ヶ淵からいの町大内の間約5kmのトンネルである。この放水路は旧の放水路の約3倍の放水能力があり、これで日高村は長い間苦しめられてきた水害からのがれる見通しが立った。日下川放水路竣工記念碑が建立されている。	<a href="#">河川高知180</a>
					<b>■日下川の激甚災害対策特別緊急事業(仁淀川水系)</b> 昭和50年と51年の台風を受けて、昭和51年に日下川の激甚災害特別緊急事業が採択された。昭和52年に日下川放水トンネルの工事が始まり、昭和57年2月に竣工した。この放水路は、日下川と戸梶川の合流点あたりを始点とし、仁淀川の八田堰下流に至る全長約5,000mで、最大通水量は130m <sup>3</sup> /sという日本最大級の放水路トンネルである。平成13年には国土交通省により日下川放水路呑口に可動堰が設置された。日下川や戸梶側の上流部の浸水対策や下流域の水量確保と水質改善に効果をもたらすものである。日下川放水路竣工記念碑が建立されている。	<a href="#">河川高知182</a>
高知8	大渡ダムに殉職碑 	高知県	仁淀川町	河川	<b>■大渡ダム(仁淀川水系)</b> 大渡ダムは、ダム地点で基本高水6,000m <sup>3</sup> /sのうち2,200m <sup>3</sup> /sの洪水調節をするほか、最大23.6m <sup>3</sup> /sの不特定利水の確保、高知市へ日最大120,000m <sup>3</sup> の水道用水の供給、最大出力33,000KWの発電を目的とする多目的ダムである。昭和41年4月から実施計画調査に入り、同年6月の仁淀川水系工事実施基本計画で事実上大渡ダムの建設が決定した。ダムの建設工事は昭和43年度から始まり、昭和46年10月に本体工事に着手、昭和55年8月に堤体コンクリートの打設が完了、昭和61年11月に竣工した。大渡ダムに殉職碑が建立されている。	<a href="#">河川高知50</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■大渡ダム(仁淀川水系)</p> <p>大渡ダムは、ダム地点で計画高水流量6,000m<sup>3</sup>/sのうち2,200m<sup>3</sup>/sを調節するとともに、最大出力33,000KWの発電、最大23.6m<sup>3</sup>/sの不特定利水の確保、高知市へ日最大120,000m<sup>3</sup>の上水道用水の供給を目的とする多目的ダムである。大渡ダムの建設工事は昭和43年度に工事用道路づくりから始まり、昭和48年2月にダム本体工事に着工、昭和55年8月にコンクリート打設が完了、昭和56年10月から試験湛水に入ったが、昭和57年4月に大規模な地すべりが起こったため地すべり対策を行い、昭和61年11月に竣工した。</p> <p>大渡ダムに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知187</a>
高知9	大渡ダム建設記念碑 	高知県	仁淀川町	河川	<p>■大渡ダム(仁淀川水系)</p> <p>大渡ダムは、ダム地点で基本高水6,000m<sup>3</sup>/sのうち2,200m<sup>3</sup>/sの洪水調節をするほか、最大23.6m<sup>3</sup>/sの不特定利水の確保、高知市へ日最大120,000m<sup>3</sup>の水道用水の供給、最大出力33,000KWの発電を目的とする多目的ダムである。昭和41年4月から実施計画調査に入り、同年6月の仁淀川水系工事実施基本計画で事実上大渡ダムの建設が決定した。ダムの建設工事は昭和43年度から始まり、昭和46年10月に本体工事に着手、昭和55年8月に堤体コンクリートの打設が完了、昭和61年11月に竣工した。</p> <p>大渡ダム建設記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知50</a>
					<p>■大渡ダム(仁淀川水系)</p> <p>大渡ダムは、ダム地点で計画高水流量6,000m<sup>3</sup>/sのうち2,200m<sup>3</sup>/sを調節するとともに、最大出力33,000KWの発電、最大23.6m<sup>3</sup>/sの不特定利水の確保、高知市へ日最大120,000m<sup>3</sup>の上水道用水の供給を目的とする多目的ダムである。大渡ダムの建設工事は昭和43年度に工事用道路づくりから始まり、昭和48年2月にダム本体工事に着工、昭和55年8月にコンクリート打設が完了、昭和56年10月から試験湛水に入ったが、昭和57年4月に大規模な地すべりが起こったため地すべり対策を行い、昭和61年11月に竣工した。</p> <p>大渡ダムに慰霊碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知187</a>
高知10	渡川治水起工式記念碑 	高知県	四万十市	河川	<p>■戦前の渡川改修工事(渡川水系)</p> <p>渡川改修は明治23年洪水を対象洪水として昭和4年度に着手され、昭和5年度に具同掘削工事に着手したのを機に本格的な工事に入り、昭和6年度には後川右岸の中村築堤工事、昭和7年度には具同築堤工事に着手し、昭和9年度には岩崎堤防の拡築工事を完了するなどしたが、昭和10年8月29日に計画高水流量を大幅に上回る洪水に見舞われ、計画を一部変更した。その後、昭和12年度に坂本背割堤防に着手するなど中筋川改修工事を行ったが、戦時体制下のため昭和19年度には大部分の工事が休止状態となった。</p> <p>岩崎堤防に渡川治水起工式記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知64</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■戦前の渡川改修工事(渡川水系) 戦前の渡川改修事業は14ヶ年継続事業として昭和4年度に着手され、昭和5年度に具同人力掘削工事、昭和6年度に後川右岸の中村築堤工事、昭和7年度に具同築堤工事に着手し、昭和9年度には岩崎堤防の拡築工事を完了するなどしたが、昭和10年8月に計画高水流量を大幅に上回る洪水に見舞われ、計画の一部変更を余儀なくされた。その後、昭和12年度に坂本背割堤防、昭和13年度に甲ヶ峯開削工事に着手するなどしたが、戦時体制下のため昭和19年度には大部分の工事が休止状態となった。 岩崎堤防に渡川治水起工式記念碑が建立されている。</p> <p>■中村市の渡川の改修(渡川水系) 昭和4年4月に待望の渡川改修工事の起工式があげられた。この工事は直轄工事として行い、渡川とその支流の後川・中筋川の流域で合計31kmにわたって川幅の拡張、堤防の築造、護岸の施行などを行うものであった。しかし、昭和10年の大洪水により工事計画は変更となった。その後、戦争などのために工事は延期を余儀なくされ、当初の14年計画は40年過ぎた現在もなお30%の工事が残されている。それでも、渡川や後川の改修により中村旧市街地などは堤防に囲まれ、逆流防止により中筋川沿岸も良田化している。 岩崎堤防に渡川治水起工式記念碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">河川高知70</a></p> <p><a href="#">河川高知156</a></p>
高知11	<p>波介川河口導流事業通水記念碑</p> 	高知県	土佐市	河川	<p>■波介川河口導流事業(仁淀川水系) 波介川は、出水時に仁淀川本川水位上昇の影響を受け、自然排水が困難な状況となり、浸水被害が頻発している。波介川河口導流事業は、現在の仁淀川合流点から河口までの新川掘削を行い、現合流点を河口部に変更することにより、波介川の水位を低減させ浸水被害を軽減することを目的とするものである。昭和60年度の事業着手後、国・県・市と地元との協議調整が継続的に行われ、平成16年3月に本格的に着工し、平成24年5月に波介川河口導流路の通水が開始された。 波介川河口導流事業通水記念碑が建立されている。</p> <p>■波介川床上浸水対策特別緊急事業(仁淀川水系) 波介川沿川では、昭和50年洪水被害を契機に河川激甚災害対策特別緊急事業に着手し、昭和55年に波介川水門を設置するとともに、昭和60年度から波介川の洪水を安全に流下させるため波介川河口導流事業に着手したが、平成16年、平成17年の2年連続の大規模な浸水被害を受けたことを契機に、早期に再度災害防止を図るため、平成19年度より波介川床上浸水対策特別緊急事業に着手し、平成24年3月に事業を完了した。波介川河口導流路の運用開始以降、波介川沿川の浸水被害の軽減等の事業目的に見合った効果が発現されている。 波介川河口導流事業通水記念碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">河川高知77</a></p> <p><a href="#">河川高知85</a></p>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知12	大渡ダム記念碑 	高知県	仁淀川町	河川	<p>■大渡ダム建設と仁淀村の対応</p> <p>昭和41年1月に仁淀川が一級河川に指定されてから大渡ダム建設が本格化し、昭和42年に大渡ダム建設の調査事務所が開設された。その後、立ち入り調査、水没者移転対策、ダム建設工事、試験湛水による大規模な地すべりと復旧工事などを経て、昭和61年11月に大渡ダムは竣工した。大渡ダム建設は、仁淀村としては一時的就労の場ができることのほかは、特別なメリットは期待できなかったが、下流地域の防災、都市用水、発電用水の確保などの目的を持っているので、大局的視野に立って全面的に協力してきた。</p> <p>仁淀村により大渡ダム記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知189</a>
高知13	神母閘門完成記念碑 	高知県	日高村	河川	<p>■神母閘門の補強改修工事(仁淀川水系)</p> <p>昭和38～39年度に建設省直営で本格的な神母閘門の補強修築が行われた。これにより、従来の木製閘門は改造されて、鋼鉄製油圧式ディーゼル・エンジン巻き上げゲートに取り替え、6門とも頑丈な鋼鉄ゲートとなり、内外両面の洪水排水も完全に調節されることになった。これは大正3年の閘門構築以来50余年ぶりの補強改修工事であった。</p> <p>神母樋門近くに神母閘門完成記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">河川高知198</a>
高知14	国道197号開通記念碑 	高知県	梶原町	道路	<p>■梶原地区工事(国道197号)</p> <p>国道197号の梶原地区は標高630mで、冬季は積雪、凍結のため通行不能を繰り返していた。梶原町～愛媛県境間の梶原地区(区間延長6.3km)は昭和49年度から権限代行としての中村工事事務所で施工を担当することが決まり、昭和50年度に着工した。工事は、川口トンネル(L=445m)、仲間トンネル(L=527m)と5つの橋梁が計画された。複雑で地すべりしやすい地質(四万十層群の断層や褶曲構造)のため、地すべり対策を講じながら施工を進め、昭和58年度に供用開始した。</p> <p>梶原町飯母に国道197号開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路高知12</a>
					<p>■梶原町の国道197号</p> <p>国道197号は、明治29年に須崎・梶原間が郡道に認定、明治35年に須崎町より梶原市街までが県道に編入、大正9年に須崎・宇和島間が須崎宇和島線として県道に編入、昭和39年に主要地方道に認定され、昭和44年に国道に昇格した。梶原町内の延長は野越トンネル内東津野村境より、高研山トンネル内日吉村境までの11.44kmであり、改良工事は昭和38年に野越トンネル改良に始まり、昭和58年に町内及び日吉村の城川町境まで、全線2車線として改良工事が完了した。</p> <p>梶原町飯母に国道197号開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路高知98</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■ 梶原町区間の改良工事(国道197号)</p> <p>国道197号の梶原町内11.6kmについては、化粧坂トンネル(101m)が昭和50年に完成し、昭和56年8月には飯母から高研山トンネル(1,562m)を含む約7kmが開通した。また、昭和51年には人家密集地を避けるバイパス工事に着手し、飯母第一トンネル(212m)、飯母第二トンネル(96.2m)、飯母橋(116.6m)などを完成して昭和56年10月に供用開始した。さらに最後まで工事が残っていた川口トンネル(445m)が昭和58年11月に完成し、梶原～日吉間の高研地区は距離が9.3km短縮され、所要時間は30分短縮された。</p> <p>梶原町飯母に国道197号開通記念碑が建立されている。</p> <p>■ 高研地区の直轄工事(国道197号)</p> <p>国道197号高研地区の直轄工事は、大洲工事事務所と中村工事事務所が担当し、昭和51年3月に高研山トンネル(1,562m)工事に着工、昭和56年8月に開通した。昭和57年8月に中屋敷第二橋から出口第一橋まで320mを、同11月には仲間トンネル(527m)を供用開始、同12月には川口トンネル(445m)が完成した。昭和58年1月には飯母橋右岸から仲間トンネル東口まで1,840m、日向第二大橋より中屋敷第一橋まで1,650m、出口第一橋より日出橋まで1,410mが完成し、直轄工事16,870m全線が完了、供用開始となった。</p> <p>梶原町飯母に国道197号開通記念碑が建立されている。</p>	<p><a href="#">道路高知99</a></p> <p><a href="#">道路高知147</a></p>
高知15	<p>笹木越の開道碑</p> 	高知県	日高村	道路	<p>■ 土佐新道(国道32号、国道33号)</p> <p>土佐新道(徳島県境～高知市～愛媛県境148.2km)は四国新道の一部である。大久保謙之丞に共鳴した土佐の有志が討議して明治17年12月に立案した新道道路開削に関する請願を県会に提出したところ、高知県令田辺良顕は全面的にこの計画に賛同したが、明治18年3月の県会で否決された。田辺県令は土佐にとって新道計画が必要であることを説き、明治18年11月の県会に再度提案し、一部修正のうえ可決された。このため、土佐新道は明治19年3月に着工、明治27年5月に竣工した。</p> <p>日高村に笹木越の開道碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路高知61</a>
高知16	<p>四足峠トンネルの碑</p> 	高知県	香美市	道路	<p>■ 四足峠トンネル(国道195号)</p> <p>国道195号四足峠トンネルは高知県物部村別府と徳島県木頭村北川を結ぶ延長1,857mのトンネルである。もともと日本道路公団が有料道路「高德トンネル」と称して計画していたが、地元負担額に関する徳島県への自治省の勧告により中止となった。その後、高知・徳島両県の工事を高知県が担当することとし、昭和36年1月に高知県四足峠ずい道建設事務所が特設された。四足峠トンネルは国庫補助事業として昭和37年1月に工事着手、1日平均5mを掘進し、昭和37年12月に導坑を貫通、昭和39年12月に竣工した。</p> <p>四足峠トンネルの物部村側に碑が設置されている。</p>	<a href="#">道路高知97</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■物部村区間の改修工事(国道195号)            国道195号の物部村の工事は、大栃橋(172.2m)、四ツ足峠トンネル(1.857m)とトンネルの取り付け道が昭和35～40年度に施工されたのに続き、落合橋～トンネル取り付け道間(1.5km)が昭和48年度に完工した。昭和43年には根木屋～市宇の崎岩谷トンネル間(6.3km)を着工、昭和52年度に完工した。ついで昭和48年度から大栃橋～根木屋間(7.9km)を着工、昭和60年度に完工した。昭和61年度には崎岩谷トンネル～落合橋間(6.1km)、平成2年度には香北町境～大栃橋間が完了し、物部村分の全線の改築が終了した。            四足峠トンネルの物部村側に碑が設置されている。</p>	<a href="#">道路高知103</a>
高知17	四万十川橋之碑 	高知県	四万十市	道路	<p>■四万十川橋(旧国道56号)            四万十川を往来する架橋は地元の人々によって念願されていたが、大正13年3月に起工式が行われ、大正15年6月に橋長437.6m、有効幅員5.5mの曲弦結構様式の四万十川鉄橋が完成した。しかし、昭和21年の南海大地震により鉄橋中央部の鉄骨6桁が落下し、復旧工事により昭和23年に元通りになった。さらに昭和42年11月に歩道橋架設工事が始まり、昭和43年3月に完成し、従来の橋は自動車専用道となった。なお、本鉄橋は赤色に塗装されているため、市民の間では通称赤鉄橋と愛称されている。            四万十川橋之碑が建立されている。</p>	<a href="#">道路高知168</a>
高知18	はりまや交差点のダイヤモンドクロッシングの標識 	高知県	高知市	鉄道	<p>■土佐電鉄高知駅～潮江橋間(とさでん交通棧橋線)            大正13年に国鉄高知駅が新設されたことに伴い、高知駅と潮江橋を結ぶ道路の拡張と軌道敷設が緊急の課題となった。昭和2年春に始まった道路建設工事は秋に完成し、軌道敷設工事は同年11月に開始され昭和3年7月に完了した。特に注目されたのは播磨屋橋交差点の新設工事であった。棧橋、伊野、後免、高知駅から自由にどの方向へも電車が運行できるようにダイヤモンド・クロッシングと呼ばれる十字路を建設した。            はりまや交差点にダイヤモンドクロッシングの標識が設置されている。</p>	<a href="#">鉄道高知4</a>
高知19	高知県国鉄発祥の地碑 	高知県	須崎市	鉄道	<p>■土讃線須崎～土佐山田間(JR土讃線)            明治26年に官民一体となって発足した土佐鉄道協会は、明治39年に高知県内務部長を会長とする官線四国鉄道期成同盟会と改称し、熱烈な敷設運動を展開した。この結果、大正5年に請願が国会を通過し、須崎～土佐山田間が第1期工事線となった。ここで高岡経由か佐川経由かの南北鉄道争奪戦が起こったが、北線(佐川経由)に落ち着き、大正7年に須崎側から建設工事に着手し、大正13年3月に須崎～日下間が、同年11月に日下～高知間が、大正14年12月に高知～土佐山田間が開通した。            須崎駅に高知県国鉄発祥の地碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知9</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■高知線須崎～土佐山田間(JR土讃線)            明治26年に官民一体となって発足した土佐鉄道協会は、大正年間に入り高知県内務部長を会長とする四国鉄道期成同盟会と改称し、官民一致して敷設運動を展開した。この結果、大正5年3月に須崎～山田間が高知線として第一期線に追加された。しかし、ここで高岡経由か佐川経由かの南北鉄道争奪戦が起こったが、北線(佐川経由)に落ち着き、大正7年4月に須崎方から建設工事に着手し、大正13年3月に須崎～日下間が、同年11月に日下～高知間が、大正14年12月に高知～土佐山田間が開通した。            須崎駅に高知県国鉄発祥の地碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知10</a>
					<p>■土讃線須崎～琴平間(JR土讃線)            大正3年4月に土佐鉄道協会は官線四国鉄道期成同盟会に組織替えし、より強力に鉄道敷設の運動を行った。その結果、大正7年4月に土讃線のうち高知線(須崎～高知～土佐山田間)の工事が吾桑～斗賀野間で始められた。大正8年3月には琴平～土佐山田間が土佐岩原を境に土讃北線、土讃南線に分割され、北線は大正9年3月に着工され、南線は大正15年2月に着工された。高知線は大正14年3月に完工、土讃南線は昭和9年11月に完工、土讃北線は昭和10年3月に完工し、琴平～須崎間が開通した。            須崎駅に高知県国鉄発祥の地碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知11</a>
					<p>■須崎駅(JR土讃線)            須崎駅は、大正13年3月に土讃線の前身である高知線の起点駅として開業し、昭和30年にコンクリート造の駅舎が竣工した。昭和50年に駅前に自転車置場が完成、昭和63年4月に駅舎を改築し、平成6年に駅前ロータリーにシンボル塔が完成した。ホームは、駅舎に接した単式ホーム1面1線と島式ホーム1面2線の合計2面3線及び側線の3線を有し、ホーム間は跨線橋で結ばれている。            須崎駅に高知県国鉄発祥の地碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知68</a>
高知20	窪川駅の鉄道開通記念碑 	高知県	四万十町	鉄道	<p>■土讃線須崎～窪川間(JR土讃線)            昭和9年3月に須崎～窪川間32kmが窪川線として鉄道敷設法に追加編入され、昭和10年度から着工された。昭和14年11月に須崎～土佐久礼間が部分開通し、昭和17年に全線の土木工事は終了しながら、中止された。終戦後、新線工事が再開され、昭和22年10月に土佐久礼～影野間が開通した。その後、新線工事はGHQ民間運輸局の指示により中止されたが、新線建設解除に伴い、影野～窪川間の工事再開が認められ、昭和26年11月に開通した。窪川町では盛大な開通祝賀式が催された。            窪川駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知14</a>
					<p>■土讃線影野～窪川間(JR土讃線)            昭和10年に土讃線の須崎～窪川間32kmが着工、昭和14年11月に須崎～土佐久礼間13kmが、昭和22年10月に土佐久礼～影野間10.8kmが開通したが、GHQの民間運輸局により鉄道新線の建設中止指令が出された影野～窪川間の工事は凍結された。昭和26年に影野～窪川間の工事が再開され、同年11月に開通した。この区間は高南台地の平坦部で、トンネルも窪川トンネル(404.4m)1箇所だけで、工事は比較的容易であった。この開通により、高幡地方に豊富な森林資源の開発が可能になった。            窪川駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知16</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
					<p>■土讃線久礼～窪川間(JR土讃線)</p> <p>久礼～窪川間の鉄道建設工事が行われ、昭和17年に影野までの路盤工事が完成したが、戦時中の資材不足のためレール敷設ができないまま工事が中止された。戦後、昭和21年11月に起工式が行われ、昭和22年10月に久礼～影野間が開通した。影野～窪川間は占領軍総司令部の命令で工事が差し止められたままであったが、新路線解除に伴って昭和26年11月に開通した。窪川駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知71</a>
高知21	<p>土佐大正駅の予土線開通記念碑</p> 	高知県	四万十町	鉄道	<p>■窪江線窪川～江川崎間(JR予土線)</p> <p>窪江線窪川～江川崎間48.1kmの建設工事は昭和34年3月に着工されたが、昭和36年に工事が中断された。電源開発を目的として大正町田野々と瀬里の2箇所で大正ダムを建設する計画が動き始め、窪江線の予定ルートが水没する問題が持ち上がったためであった。ダム建設計画は立ち消えとなり、昭和39年12月に工事が日本鉄道公団によって再開され、昭和48年1月に田野々～四手間の完工により窪江線の全工事が終わった。国鉄は昭和49年3月に窪江線と宇和島線の江川崎から北宇和島間を合わせて予土線として開業した。土佐大正駅に予土線開通記念碑が建立されている。</p> <p>■窪江線江川崎～川奥信号場間(JR予土線)</p> <p>江川崎～川奥信号場間39.1km(建設上は窪江線)は四国西部循環線として昭和34年7月に着工されたが、昭和36年に電源開発による大正ダム建設計画のため窪江線ルートの水没問題が持ち上がり、2年にわたり工事が中断した。昭和38年度に工事が再開され、昭和49年3月に予土線として開業した。新しく開通した区間には、江川崎から半家、十川、土佐昭和、土佐大正、打井川、家地川の6駅が設置された。この時、宇和島線北宇和島～江川崎間33.6kmを予土線と改称し、北宇和島～若井間76.3km全体を予土線とした。土佐大正駅に予土線開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知23</a>
高知22	<p>安芸線電化開通記念碑</p> 	高知県	南国市	鉄道	<p>■土佐電鉄安芸線の電化</p> <p>昭和16年に高知鉄道は土佐電気から電車部門を譲り受け、高知鉄道はバス事業も吸収し、社名を土佐交通株式会社と改称し、昭和23年4月に土佐電気鉄道株式会社と改称した。土佐電気鉄道は昭和23年11月に安芸線の電化を起工し、第一工区(後免～手結間)は昭和24年4月に完成し、第二工区(手結～安芸間)は同年7月に竣工した。電化の完成により、後免～安芸間の所要時間は、これまでの1時間40分が50分に短縮された。後免町駅前に安芸線電化開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知41</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知23	豊永駅の鉄道開通記念碑 	高知県	大豊町	鉄道	<p>■豊永駅(JR土讃線)</p> <p>東土居にある豊永駅は昭和9年10月に開業し、昭和59年2月に簡易委託駅となった。簡易委託駅とは、国鉄が近距離乗車券類の発売などの一部業務を市町村、農協、駅前商店、個人などに委託した駅のこと、分類上は無人駅として扱われる。昭和63年2月には新駅舎が落成し、同年3月から有人駅として復活した。平成2年11月に土日祝日に限り無人化し、平成4年4月から駅員が準社員化(パート)されたが、平成22年9月に完全な無人駅となった。駅周辺の草刈りは山法師会が行っている。</p> <p>豊永駅に鉄道開通記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知52</a>
高知24	佐川駅の国鉄開通50年記念碑 	高知県	佐川町	鉄道	<p>■襟野々駅(JR土讃線)</p> <p>佐川～斗賀野駅間の遠隔を不便とした永野、東組地区民の要望が入れられて、昭和35年10月に襟野々駅が設置されたが、これには襟野々婦人会の請願活動が大きかった。昭和45年10月には土佐加茂駅が無人駅となった。昭和49年10月には、須崎～日下間が開通してから50周年を記念して、佐川駅で開通50周年記念式が挙行された。記念事業として植樹や記念碑の建立が行われた。</p> <p>佐川駅に国鉄開通50年記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">鉄道高知66</a>
高知25	高知海軍航空隊之碑 	高知県	南国市	港湾・空港	<p>■日章飛行場(高知空港)</p> <p>高知海軍航空隊の日章飛行場の建設は、昭和16年1月に用地買収と同時に開始され、昭和20年8月の終戦まで続いた。飛行場用地の買収、家屋移転などは高知県、建設工事は内務省神戸土木出張所、重要施設は海軍設営隊という分担で工事が進められた。先祖伝来の土地や家屋が強制的に買い上げられ、勤労奉仕により無償の労働力が動員された。滑走路を造るために久枝山が壊され、その土石を水路や田畑に埋めた。前浜地区には飛行機を格納するため誘導路が網の目のように整備され、掩体が造られた。</p> <p>高知空港の南東側に高知海軍航空隊之碑が建立されている。</p>	<a href="#">港湾・空港高知17</a>
高知26	丸山台地の記念碑 	高知県	馬路村	電力	<p>■魚梁瀬発電所</p> <p>奈半利川の電源開発は住友共同電力と四国電力によって検討がなされていたが、昭和29年11月の電源開発調整審議会にて奈半利川の電源開発の主体は電源開発(株)に決定された。最上流に位置する魚梁瀬ダムは、奈半利川水系の電源開発の中核となるもので、高さ115m、堰体積280万㎡のロックフィルダムである。魚梁瀬ダムの建設により魚梁瀬地区約250戸の家屋が水没するため、ダムサイト上流4kmの丸山台地に約10万㎡の代替地が築造、整備された。昭和40年6月に魚梁瀬発電所が営業運転を開始した。</p> <p>馬路村魚梁瀬に丸山台地の記念碑が建立されている。</p>	<a href="#">電力高知4</a>

## 高知県の石碑等リスト

No.	石碑等の名称・写真	県名	市町村名	社会資本の種類	石碑等に関連する社会資本整備の概要	四国社会資本アーカイブスで調べる
高知27	加奈木の崩えの標識 	高知県	室戸市	治山施設	<b>■佐喜浜川治山事業</b> 加奈木崩壊は佐喜浜川最上流大道南山国有林にあり、延享3年に最初に崩れて以来崩壊が続き、昭和21年の南海地震を機にますます拡大し、現在では国有林75haのほか川沿いの民有林158haの天然林が佐喜浜川になだれ落ち、流程16kmの間に215箇所の崩壊を生じている。高知営林局では大正6年に治山工事に着手し、41年間事業を継続的に実施して昭和39年度に完工した。この治山事業により、流域住民の民生の安定、海岸改定の安定、港湾の維持に大きな効果があった。 佐喜浜川最上流に加奈木の崩えの標識が設置されている。	<a href="#">治山施設高知1</a>
					<b>■佐喜浜川砂防</b> 佐喜浜川では加奈木地区で延享3年に最初の崩壊が発生し、その後も大崩壊が続いた。対策工事として、大正6年から治山工事が、昭和7年から砂防工事が始まり、昭和52年度から本格的な整備に着手し、現在に至っている。平成7年現在、ダム29基が完成しており、12基を計画または施工中である。現在の整備率は約58%程度であるが、佐喜浜川は小康状態で、下流地域に大きな災害を出していない。 佐喜浜川最上流に加奈木の崩えの標識が設置されている。	<a href="#">治山施設高知2</a>
高知28	佐喜浜川治山事業の記念碑 	高知県	室戸市	治山施設	<b>■佐喜浜川治山事業</b> 加奈木崩壊は佐喜浜川最上流大道南山国有林にあり、延享3年に最初に崩れて以来崩壊が続き、昭和21年の南海地震を機にますます拡大し、現在では国有林75haのほか川沿いの民有林158haの天然林が佐喜浜川になだれ落ち、流程16kmの間に215箇所の崩壊を生じている。高知営林局では大正6年に治山工事に着手し、41年間事業を継続的に実施して昭和39年度に完工した。この治山事業により、流域住民の民生の安定、海岸改定の安定、港湾の維持に大きな効果があった。 佐喜浜川上流に佐喜浜川治山事業の記念碑が建立されている。	<a href="#">治山施設高知1</a>
					<b>■佐喜浜川砂防</b> 佐喜浜川では加奈木地区で延享3年に最初の崩壊が発生し、その後も大崩壊が続いた。対策工事として、大正6年から治山工事が、昭和7年から砂防工事が始まり、昭和52年度から本格的な整備に着手し、現在に至っている。平成7年現在、ダム29基が完成しており、12基を計画または施工中である。現在の整備率は約58%程度であるが、佐喜浜川は小康状態で、下流地域に大きな災害を出していない。 佐喜浜川上流に佐喜浜川治山事業の記念碑が建立されている。	<a href="#">治山施設高知2</a>

---

## 四国社会資本アーカイブスの石碑等リスト

四国社会資本アーカイブス事務局  
(一般社団法人 四国クリエイト協会)  
〒760-0066 香川県高松市福岡町 3-11-22  
電話 087-822-1676 FAX 087-823-8569  
<http://www.shikoku-shakaishihon.com>